

— 2023 年度 —

病院年報



(一財) 同友会 藤沢湘南台病院

序文	2
機構、組織	3
病院実績	5
消化器内科	13
炎症性腸疾患 (IBD) センター	15
循環器内科	17
外科	19
大腸肛門科 AELIC センター	23
呼吸器外科	26
整形外科・健康スポーツ部	27
放射線科	29
眼科	31
泌尿器科	33
病理診断科	36
救急科	38
リハビリテーション科	39
形成外科	41
脳神経外科	42
薬剤部	44
栄養科	47
臨床検査室	49
中央放射線科	51
看護部	54
看護部門 人材確保担当	58
看護部 教育担当	60
3階病棟	63
3階東病棟	64
4階病棟	65
5階病棟	66
6階病棟	68
集中治療室	69
回復期リハビリ病棟	70
緩和ケア病棟	71
手術室	72
外来	74
がん看護専門看護師	75
がん看護専門看護師	79
救急看護認定看護師	82
がん化学療法看護認定看護師	83
臨床研修医	86

序文

文責者名 熊切 寛

2023年度の年報が完成しました。まずは様々な出来事のあった2023年を振り返ってみたいと思います。

2023年5月8日、新型コロナウイルス感染症の感染症法上の分類が季節性インフルエンザと同じ「5類」に引き下げられました。これにより約3年あまり続いたコロナ対策は平時の体制に切り替わり、「マスク着用」や「3密回避」など我々の暮らしを一変させたコロナ禍はいったん区切りを迎えました。とはいうものの、新型コロナウイルスの感染力が下がったわけではなく、これまでと同様の感染対策は必要不可欠です。コロナ以前とは明らかに世の中の様子は変わってしまいました。

世界に目を向けると、2023年10月にイスラム組織ハマスがイスラエルに大規模な奇襲攻撃を仕掛けました。イスラエルは報復として「ハマス壊滅」を掲げてガザに対して報復攻撃を開始。ガザの街は瓦礫の山と化し中東情勢が一気に緊張感を増しました。

こんな暗い世相の中、日本中が一番盛り上がったのは「ワールドベースボールクラシック」(WBC)での侍ジャパンの14年ぶりの優勝でした。栗山監督の名采配や大谷翔平選手の大活躍に日本中が湧きたちました。

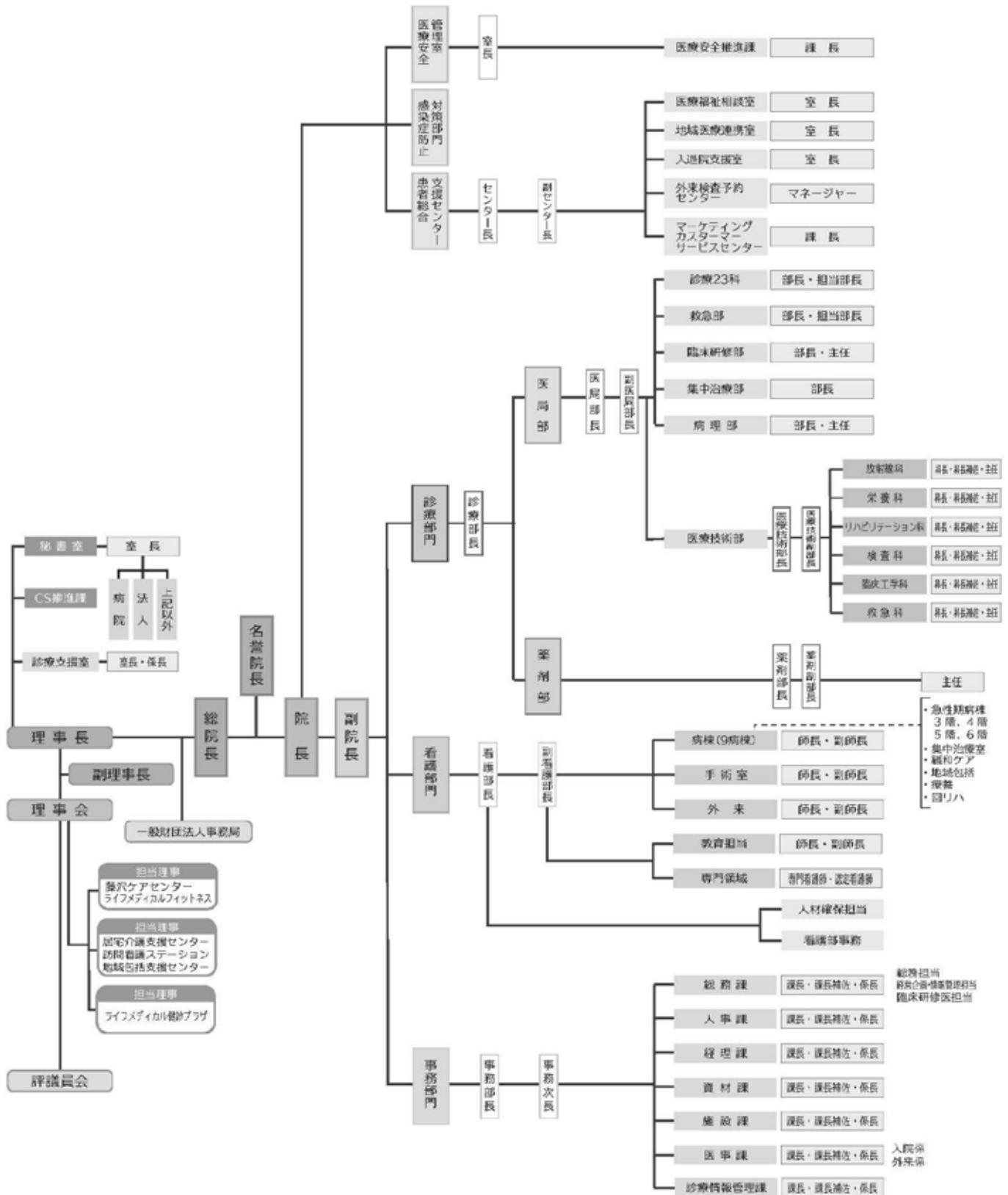
藤沢湘南台病院は2022年に創立90周年を迎えましたが、新たな時代へ突入しようとしています。長らく同友会のシンボルであったライフメディカルフィットネスの終了、約30年間地域の高齢者を支えてきた藤沢ケアセンターの閉鎖、そして築50年と老朽化した2号館の解体。藤沢湘南台病院は時代に即した新たな姿を目指し、スクラップアンドビルドを繰り返していきます。

そんな中、医師の働き方改革がいよいよ2024年4月から始まります。今まで医師の自己犠牲の上に成り立ってきた日本の医療が、働き方改革による医師の時間外労働規制によって大きく変わろうとしています。医療の複雑化により長時間労働が常態化していた医師は、慢性的な疲労の蓄積により良質かつ適切な医療の提供が困難となってきました。過労死ラインを大きく超える時間外労働により、労働意欲の減退、仕事と家庭の両立困難、医師自身の健康問題、作業能率の低下、医療事故リスクの増大、など様々な問題が明らかとなりました。こういった従来の医師の勤務実態を大きく変えるのが働き方改革です。これにより良質で高度な医療の提供が可能となると考えられています。

団塊の世代が後期高齢者となる2025年は来年です。高齢化率は30%近くなり日本の高齢化はさらに進み超高齢化社会に突入します。これからは高齢者を地域全体で支える「地域包括ケアシステム」が大切になってきます。医療・介護・予防・生活支援が一体的に提供される仕組みが求められています。藤沢湘南台病院は、これからも「地域包括ケアシステム」の中心となり、地域医療の核になる病院を目指していきます。

機構、組織

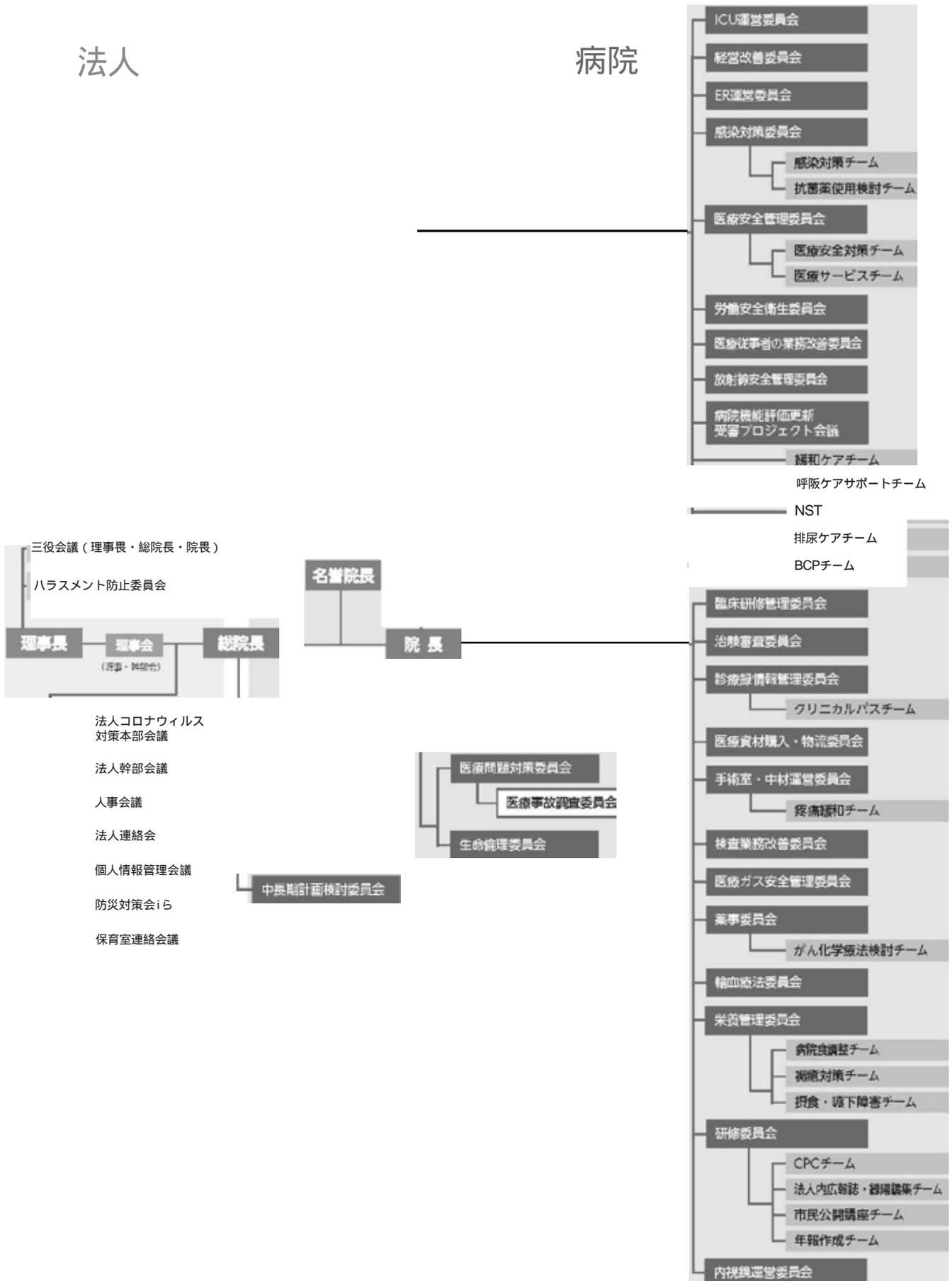
1) 組織図



2) 会議・委員会等組織図

法人

病院



病院実績

1. 科別診療実績(外来)

	内科系	外科	整形外科	眼科	泌尿器科	皮膚科	脳神経外科	形成外科	神経科	救急科	麻酔科	放射線科	緩和ケア科	合計
診療 実日数	293	293	293	293	293	271	197	243	96	366	293	293	243	
診察	90,162,278円	39,836,808円	38,819,412円	11,314,560円	23,716,182円	8,215,132円	1,671,734円	2,498,248円	616,440円	42,733,008円	911,652円	2,465,790円	200,710円	263,161,954円
投薬	400,640円	6,174円	7,100円	2,580円	4,570円	4,810円	730円	0円	0円	3,298,554円	0円	0円	0円	3,725,158円
注射	242,586,622円	164,745,150円	12,959,368円	83,818,560円	58,848,690円	17,411,890円	1,180円	115,962円	0円	2,255,704円	0円	0円	0円	582,743,126円
処置	1,648,870円	1,056,020円	3,864,552円	302,590円	3,791,006円	801,302円	0円	176,348円	0円	5,747,996円	0円	0円	0円	17,388,684円
手術	39,036,020円	26,330,330円	14,391,422円	50,749,190円	7,086,350円	1,785,410円	650,700円	5,087,576円	0円	9,698,862円	0円	0円	0円	154,815,860円
検査	243,238,282円	95,593,230円	21,175,568円	63,496,326円	37,033,662円	6,399,590円	677,320円	3,851,812円	25,420円	36,826,456円	44,290円	4,640円	24,590円	508,391,186円
画像	56,601,600円	65,110,210円	91,547,954円	1,123,340円	26,166,146円	313,000円	11,034,750円	1,501,538円	59,100円	50,864,430円	0円	17,696,750円	140,470円	322,159,288円
その他	19,455,152円	7,499,418円	58,772,806円	6,062,050円	5,971,754円	3,910,314円	1,248,320円	744,500円	2,981,760円	2,489,838円	680円	2,345,680円	31,450円	111,513,722円
合計	693,129,464円	400,177,340円	241,538,182円	216,869,196円	162,618,360円	38,841,448円	15,284,734円	13,975,984円	3,682,720円	153,914,848円	956,622円	22,512,860円	397,220円	1,963,898,978円
自費	7,126,630円	4,533,060円	13,295,603円	1,274,600円	1,994,763円	1,124,300円	621,900円	1,005,040円	88,190円	3,511,668円	600円	54,700円	1,122,400円	35,753,454円
総合計	700,256,094円	404,710,400円	254,833,785円	218,143,796円	164,613,123円	39,965,748円	15,906,634円	14,981,024円	3,770,910円	157,426,516円	957,222円	22,567,560円	1,519,620円	1,999,652,432円
1人 1日当り	19,097円	23,092円	5,988円	17,827円	16,050円	6,054円	10,654円	6,416円	4,725円	21,530円	460円	23,856円	7,998円	14,182円

2. 科別診療実績(外来) 内科系再掲

	内科	消化器科	循環器科	総合診療科	内分泌代謝科	呼吸器科	神経内科	腎臓内科	合計
診療 実日数	293	247	247	166	293	95	48	49	
診察	7,812,254円	21,827,034円	15,977,366円	2,260,816円	36,245,668円	5,328,940円	377,800円	332,400円	90,162,278円
投薬	351,300円	18,180円	20,220円	0円	10,940円	0円	0円	0円	400,640円
注射	858,090円	236,389,766円	664,756円	180,110円	532,570円	2,447,950円	0円	1,513,380円	242,586,622円
処置	4,920円	1,603,830円	34,680円	2,810円	820円	1,810円	0円	0円	1,648,870円
手術	50,830円	36,373,030円	4,480円	2,251,630円	356,050円	0円	0円	0円	39,036,020円
検査	12,956,788円	119,351,906円	58,228,284円	6,840,038円	36,858,646円	6,257,540円	360,090円	2,384,990円	243,238,282円
画像	535,650円	32,163,740円	14,383,660円	1,086,590円	2,016,700円	5,796,000円	409,520円	209,740円	56,601,600円
その他	1,439,358円	6,333,670円	5,505,234円	911,060円	3,756,670円	894,400円	385,690円	229,070円	19,455,152円
合計	24,009,190円	454,061,156円	94,818,680円	13,533,054円	79,778,064円	20,726,640円	1,533,100円	4,669,580円	693,129,464円
自費	936,600円	4,499,350円	1,297,920円	46,200円	246,310円	42,200円	57,850円	200円	7,126,630円
総合計	24,945,790円	458,560,506円	96,116,600円	13,579,254円	80,024,374円	20,768,840円	1,590,950円	4,669,780円	700,256,094円

3. 科別診療実績(入院)

	内科系	外科	整形外科	眼科	泌尿器科	形成外科	皮膚科	救急科	リハビリ科	脳神経外科	合計	合計
初診	2,866,490	1,245,090	1,044,956	5,760	183,720	5,180	0	589,660	0	0	333,280円	6,274,136円
投薬	6,374,880	3,171,914	2,795,660	218,830	265,678	6,700	0	1,295,848	595,770	86,590	159,664円	14,971,534円
注射	20,984,056	2,230,134	1,538,832	0	649,530	0	0	7,883,460	0	788,490	470,052円	34,544,554円
処置	1,208,420	1,732,228	970,322	0	19,518	0	0	257,750	0	10,670	56,146円	4,255,054円
手術	392,623,410	436,149,348	704,234,558	84,849,460	138,485,194	3,755,280	0	10,224,180	0	0	9,735,860円	1,780,057,290円
検査	34,712,686	12,113,496	2,473,916	27,580	2,213,708	66,650	0	3,518,550	144,880	97,800	629,466円	55,998,732円
画像	4,349,010	2,311,718	2,683,230	700	162,950	700	0	1,293,790	0	4,200	616,148円	11,422,446円
その他	33,962,330	27,129,880	73,432,016	1,982,650	3,996,792	135,950	0	10,276,850	49,400,770	0	18,833,790円	219,151,028円
入院	169,225,782	88,798,724	150,107,062	1,896,140	24,696,672	172,800	0	65,989,536	161,692,750	221,972,870	16,781,392円	901,333,728円
包括評価	641,004,170	570,379,020	505,849,170	47,945,780	111,664,180	3,642,830	0	109,294,120	0	0	67,338,290円	2,057,117,560円
食事療養	30,373,181	28,806,824	39,858,348	1,823,376	5,478,505	174,048	0	8,690,085	17,200,384	6,804,040	4,391,922円	143,600,713円
合計	1,337,684,415円	1,174,068,376円	1,484,988,070円	138,750,276円	287,816,447円	7,960,138円	0円	219,313,829円	229,034,554円	229,764,660円	119,346,010円	5,228,726,775円
自費	29,968,080	49,941,880	39,786,960	3,692,680	8,343,500	445,900	0	2,849,040	3,419,900	33,842,800	4,236,560円	176,527,300円

4. 科別診療実績(入院) 内科系再掲

	消化器科	循環器科	総合診療科	内分泌代謝科	合計
初診	1,817,270円	836,880円	5,760円	206,580円	2,866,490円
投薬	2,483,980円	2,894,920円	104,660円	891,320円	6,374,880円
注射	8,972,126円	7,396,250円	762,310円	3,853,370円	20,984,056円
処置	717,010円	375,490円	13,220円	102,700円	1,208,420円
手術	133,152,170円	258,962,250円	61,010円	447,980円	392,623,410円
検査	17,808,886円	15,345,850円	137,630円	1,420,320円	34,712,686円
画像	2,800,800円	1,096,860円	28,100円	423,250円	4,349,010円
その他	15,777,180円	11,620,650円	599,790円	5,964,710円	33,962,330円
入院	83,174,236円	42,101,240円	22,904,126円	21,046,180円	169,225,782円
包括評価	395,101,860円	179,987,930円	2,354,330円	63,560,050円	641,004,170円
食事療養	15,720,273円	8,566,327円	1,564,640円	4,521,941円	30,373,181円
合計	677,525,791円	529,184,647円	28,535,576円	102,438,401円	1,337,684,415円
自費	17,553,760円	9,788,800円	26,260円	2,599,260円	29,968,080円

5. 病棟別診療実績

病棟名(許可病床数)	入院患者数	退院患者数	延べ人数	1日平均	病床利用率	平均在院日数	診療収入	室料差額	自費	合計	1人1日当り
3階病棟 (30)床	790	542	8,452	23.1	77.0%	12.7	397,443,568円	4,310,000円	624,190円	402,377,758円	47,607円
4階病棟 (60)床	2634	2684	17,442	47.7	79.4%	6.6	1,255,339,506円	34,430,500円	979,160円	1,290,749,166円	74,002円
5階病棟 (60)床	1,347	1,267	18,738	51.2	85.3%	14.3	1,377,483,972円	37,015,000円	1,151,250円	1,415,650,222円	75,550円
6階病棟 (60)床	1816	1,870	18,308	50.0	83.4%	9.9	1,053,828,702円	50,565,000円	4,301,460円	1,108,695,162円	60,558円
一般病棟小計 (210)床	6,587	6,363	62,940	172.0	81.9%	10.9	4,084,095,748円	126,320,500円	7,056,060円	4,217,472,308円	67,008円
ICU (8)床	216	36	1,184	3.2	40.4%	2.3	341,155,644円	0円	330,500円	341,486,144円	288,417円
一般病棟小計 (218)床	6,803	6,399	64,124	175.2	80.4%	10.2	4,425,251,392円	126,320,500円	7,386,560円	4,558,958,452円	71,096円
緩和ケア病棟 (19)床	372	605	8,228	22.5	74.9%	16.5	344,676,169円	5,092,500円	465,040円	350,233,709円	42,566円
3階東病棟 (30)床	100	176	4,511	12.3	64.9%	30.0	229,764,660円	31,451,000円	2,391,800円	263,607,460円	58,437円
回復期リハ病棟 (33)床	26	132	8,184	22.4	67.8%	61.8	229,034,554円	3,289,000円	130,900円	232,454,454円	28,404円
療養病棟 (30)床	0	0	0	0.0	0.0%	0.0	0円	0円	0円	0円	0円
合計 (330)床	7,301	7,312	85,047	232.4	70.4%	12.0	5,228,726,775円	166,153,000円	10,374,300円	5,405,254,075円	63,556円

6. 科別外来患者数

年月	内科系		外科		整形外科		皮膚科		眼科		泌尿器科		脳神経外科		形成外科		神経科		救急科		麻酔科		放射線科		緩和ケア科		合計		川ビリ再掲
	患者数	新患	患者数	新患	患者数	新患	患者数	新患	患者数	新患	患者数	新患	患者数	新患	患者数	新患	患者数	新患	患者数	新患	患者数	新患	患者数	新患	患者数	新患	患者数	新患	
R5年04月	2,875	346	1,414	124	3,353	321	511	74	1,053	86	901	54	154	29	161	40	64	0	481	348	193	2	105	95	27	19	11,292	1,538	1,425
R5年05月	2,949	320	1,424	117	3,582	360	539	87	1,085	122	801	63	146	28	229	49	63	1	621	479	173	0	85	77	14	10	11,711	1,713	1,557
R5年06月	3,044	375	1,483	129	3,758	365	535	89	1,138	106	932	66	142	31	221	47	53	0	474	341	150	1	95	84	15	9	12,040	1,643	1,676
R5年07月	3,070	409	1,482	122	3,594	350	553	88	1,018	83	913	81	105	19	194	26	60	0	707	530	175	0	89	78	10	9	11,970	1,795	1,542
R5年08月	3,323	533	1,353	111	3,612	367	651	114	1,076	120	877	80	112	22	238	44	68	3	723	530	172	1	81	71	30	21	12,316	2,017	1,544
R5年09月	3,089	415	1,421	114	3,580	316	556	65	1,114	94	886	76	151	29	192	27	72	1	711	502	160	0	77	65	16	8	12,025	1,712	1,582
R5年10月	3,079	369	1,649	172	3,632	328	568	70	1,044	113	901	77	129	25	201	48	69	2	563	400	167	1	79	65	14	11	12,095	1,681	1,614
R5年11月	2,994	401	1,417	134	3,432	306	562	58	930	99	852	89	95	17	192	47	74	0	515	370	191	0	51	32	14	12	11,319	1,565	1,559
R5年12月	3,054	354	1,510	131	3,423	297	554	66	969	86	823	63	114	27	185	30	68	0	627	448	160	2	68	58	13	8	11,568	1,570	1,533
R6年01月	3,208	574	1,354	107	3,329	300	395	58	1,053	79	907	77	172	26	178	29	58	1	615	470	169	0	73	62	18	13	11,529	1,796	1,504
R6年02月	2,912	418	1,375	116	3,226	288	544	98	1,043	91	874	59	134	12	172	31	69	0	438	313	182	0	79	71	16	11	11,064	1,508	1,520
R6年03月	3,244	400	1,623	129	3,761	318	549	71	1,158	140	979	72	199	21	228	43	72	0	463	333	191	1	81	71	22	19	12,570	1,618	1,744

7. 科別外来患者数 内科系再掲

年月	内科		消化器科		循環器科		総合診療科		内分泌代謝科		呼吸器科		神経内科		腎臓内科		合計	
	患者数	新患	患者数	新患	患者数	新患	患者数	新患	患者数	新患	患者数	新患	患者数	新患	患者数	新患	患者数	新患
R5年04月	110	54	1,287	189	697	76	144	2	449	20	117	4	36	0	35	1	2,875	346
R5年05月	120	58	1,319	151	684	81	160	2	464	20	127	7	36	1	39	0	2,949	320
R5年06月	158	92	1,331	179	718	80	145	0	483	16	130	7	48	0	31	1	3,044	375
R5年07月	207	119	1,336	186	684	81	159	2	499	15	121	6	35	0	29	0	3,070	409
R5年08月	388	250	1,395	180	732	77	120	2	488	16	126	4	35	1	39	3	3,323	533
R5年09月	231	132	1,394	184	618	81	133	0	506	13	121	5	53	0	33	0	3,089	415
R5年10月	141	73	1,422	207	694	66	149	1	483	17	129	4	33	0	28	1	3,079	369
R5年11月	140	70	1,374	225	652	88	124	0	493	12	128	4	39	0	44	2	2,994	401
R5年12月	174	96	1,377	156	670	74	143	2	497	19	122	6	34	0	37	1	3,054	354
R6年01月	418	278	1,355	195	686	85	144	0	423	10	103	4	52	1	27	1	3,208	574
R6年02月	208	114	1,276	178	701	92	152	2	370	21	129	7	39	2	37	2	2,912	418
R6年03月	158	70	1,484	205	774	97	122	4	479	19	129	5	57	0	41	0	3,244	400
合計	2,453	1,406	16,350	2,235	8,310	978	1,695	17	5,634	198	1,482	63	497	5	420	12	36,841	4,914

8. 科別入院患者数

延患者数	内科系	外科	整形外科	眼科	泌尿器科	形成外科	皮膚科	救急科	リハビリ科	緩和ケア科	脳神経外科	合計
R5年04月	1,344	1,421	1,759	100	255	11	0	385	718	386	148	6,527
R5年05月	1,318	1,365	1,562	102	337	10	0	462	624	415	117	6,312
R5年06月	1,348	1,570	1,597	118	293	3	0	531	583	336	147	6,526
R5年07月	1,612	1,673	1,516	118	270	11	0	545	657	355	135	6,892
R5年08月	1,529	1,728	1,889	93	255	14	0	610	755	374	155	7,402
R5年09月	1,861	1,623	1,887	99	305	11	0	555	716	412	270	7,739
R5年10月	1,912	1,424	1,875	129	330	11	0	578	750	421	276	7,706
R5年11月	1,683	1,493	1,690	99	310	8	0	483	664	386	189	7,005
R5年12月	1,767	1,762	1,893	89	322	4	0	274	694	363	122	7,290
R6年01月	2,039	1,670	1,950	103	236	1	0	229	681	416	245	7,570
R6年02月	1,573	1,622	1,964	115	262	7	0	113	654	375	291	6,976
R6年03月	1,998	1,337	2,000	86	206	12	0	247	688	272	256	7,102
合計	19,984	18,688	21,582	1,251	3,381	103	0	5,012	8,184	4,511	2,351	85,047

新入院患者数	内科系	外科	整形外科	眼科	泌尿器科	形成外科	皮膚科	救急科	リハビリ科	緩和ケア科	脳神経外科	合計
R5年04月	192	137	114	31	42	2	0	19	2	8	8	555
R5年05月	212	142	117	35	46	4	0	19	3	5	4	587
R5年06月	186	134	108	48	55	1	0	21	5	9	15	582
R5年07月	184	155	116	50	52	3	0	27	4	6	5	602
R5年08月	201	163	125	39	53	3	0	44	2	11	14	655
R5年09月	209	154	121	44	60	4	0	29	2	11	14	648
R5年10月	225	135	111	59	65	2	0	23	0	9	12	641
R5年11月	192	150	111	42	58	3	0	14	2	5	8	585
R5年12月	205	135	108	39	46	2	0	12	3	10	8	568
R6年01月	230	150	137	41	47	1	0	13	0	8	20	647
R6年02月	197	153	130	53	45	2	0	13	2	8	13	616
R6年03月	225	131	139	40	46	4	0	13	1	10	6	615
合計	2,458	1,739	1,437	521	615	31	0	247	26	100	127	7,301

新退院患者数	内科系	外科	整形外科	眼科	泌尿器科	形成外科	皮膚科	救急科	リハビリ科	緩和ケア科	脳神経外科	合計
R5年04月	194	137	123	31	42	2	0	10	11	11	7	568
R5年05月	197	133	114	33	46	4	0	12	16	11	5	571
R5年06月	181	139	107	45	53	1	0	27	7	22	7	589
R5年07月	175	165	96	46	49	3	0	20	12	14	9	589
R5年08月	182	153	128	43	50	3	0	33	10	10	10	622
R5年09月	204	154	122	49	65	4	0	32	11	15	12	668
R5年10月	208	137	99	53	63	2	0	20	10	14	14	620
R5年11月	203	130	103	43	59	3	0	19	13	11	8	592
R5年12月	200	158	122	44	54	2	0	18	10	22	8	638
R6年01月	217	134	98	41	38	0	0	14	10	13	11	576
R6年02月	192	149	124	48	44	3	0	14	11	13	16	614
R6年03月	223	161	141	40	50	5	0	6	11	20	8	665
合計	2,376	1,750	1,377	516	613	32	0	225	132	176	115	7,312

9. 科別入院患者数 内科系再掲

延患者数	循環器科	消化器科	総合診療科	内分泌代謝科	合 計
R5年04月	331	765	20	228	1,344
R5年05月	301	816	40	161	1,318
R5年06月	256	814	111	167	1,348
R5年07月	311	978	129	194	1,612
R5年08月	279	1,014	67	169	1,529
R5年09月	523	1,049	71	218	1,861
R5年10月	580	1,087	29	216	1,912
R5年11月	443	975	49	216	1,683
R5年12月	484	1,021	88	174	1,767
R6年01月	588	1,100	133	218	2,039
R6年02月	474	894	37	168	1,573
R6年03月	491	1,155	20	332	1,998
合計	5,061	11,668	794	2,461	19,984

10. 病棟別入院患者数

	3階病棟				4階病棟				5階病棟				6階病棟				ICU病棟				一般病棟合計						
	延患者数	入院	退院	(死亡)	延患者数	入院	退院	(死亡)	延患者数	入院	退院	(死亡)	延患者数	入院	退院	(死亡)	延患者数	入院	退院	(死亡)	延患者数	入院	退院	(死亡)	延患者数	入院	退院
R5年04月	561	54	25	2	1,313	207	216	3	1,541	101	109	0	1,422	143	149	0	91	11	1	1	4,928	516	500	6			
R5年05月	579	45	33	2	1,278	231	225	3	1,433	116	107	0	1,400	131	126	0	68	18	4	2	4,758	541	495	7			
R5年06月	634	58	38	6	1,299	227	220	1	1,399	110	101	1	1,547	125	146	3	71	12	3	1	4,950	532	508	12			
R5年07月	721	68	41	1	1,429	221	218	5	1,449	109	94	0	1,524	149	157	3	68	7	0	0	5,191	554	510	9			
R5年08月	772	73	43	3	1,423	216	209	4	1,664	118	118	0	1,577	175	164	4	86	20	5	5	5,522	602	539	16			
R5年09月	791	84	55	1	1,624	210	233	4	1,653	106	106	0	1,607	157	174	3	123	34	5	4	5,798	591	573	12			
R5年10月	767	78	50	1	1,642	227	230	2	1,646	113	103	1	1,577	169	168	6	110	21	3	0	5,742	608	554	10			
R5年11月	681	58	33	0	1,443	206	218	4	1,469	114	97	0	1,511	164	166	2	100	7	2	1	5,204	549	516	7			
R5年12月	703	74	66	6	1,455	212	228	4	1,626	96	114	0	1,606	137	150	2	107	13	1	1	5,497	532	559	13			
R6年01月	809	74	53	7	1,550	228	226	6	1,638	122	88	0	1,574	155	139	0	150	37	6	3	5,721	616	512	16			
R6年02月	763	81	61	1	1,425	234	229	5	1,596	104	103	1	1,493	142	147	1	113	18	5	2	5,390	579	545	10			
R6年03月	671	43	44	1	1,561	215	232	2	1,624	138	127	0	1,470	169	184	2	97	18	1	1	5,423	583	588	6			
合計	8,452	790	542	31	17,442	2,634	2,684	43	18,738	1,347	1,267	3	18,308	1,816	1,870	26	1,184	216	36	21	64,124	6,803	6,399	124			

	緩和ケア病棟				3階東病棟				回復期リハ病棟				療養病棟				総合計			
	延患者数	入院	退院	(死亡)	延患者数	入院	退院	(死亡)	延患者数	入院	退院	(死亡)	延患者数	入院	退院	(死亡)	延患者数	入院	退院	(死亡)
R5年04月	386	8	11	11	495	29	46	0	718	2	11	0	0	0	0	0	6,527	555	568	17
R5年05月	415	5	11	10	515	38	49	0	624	3	16	1	0	0	0	0	6,312	587	571	18
R5年06月	336	9	22	20	657	36	52	2	583	5	7	0	0	0	0	0	6,526	582	589	34
R5年07月	355	6	14	14	689	38	53	0	657	4	12	0	0	0	0	0	6,892	602	589	23
R5年08月	374	11	10	10	751	40	63	3	755	2	10	0	0	0	0	0	7,402	655	622	29
R5年09月	412	11	15	14	813	44	69	3	716	2	11	0	0	0	0	0	7,739	648	668	29
R5年10月	421	9	14	13	793	24	42	2	750	0	10	0	0	0	0	0	7,706	641	620	25
R5年11月	386	5	11	9	751	29	52	0	664	2	13	0	0	0	0	0	7,005	585	592	16
R5年12月	363	10	22	22	736	23	47	0	694	3	10	1	0	0	0	0	7,290	568	638	36
R6年01月	416	8	13	12	752	23	41	1	681	0	10	0	0	0	0	0	7,570	647	576	29
R6年02月	375	8	13	13	557	27	45	3	654	2	11	0	0	0	0	0	6,976	616	614	26
R6年03月	272	10	20	18	719	21	46	2	688	1	11	0	0	0	0	0	7,102	615	665	26
合計	4,511	100	176	166	8,228	372	605	16	8,184	26	132	2	0	0	0	0	85,047	7,301	7,312	308

11. 救急患者取扱数

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
交通事故	重症	0 (0)	0 (0)	1 (0)	1 (1)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	3 (2)
	中等症	1 (0)	1 (0)	3 (2)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	2 (1)	2 (2)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	11 (6)
	軽症	17 (10)	31 (25)	23 (18)	33 (22)	26 (18)	28 (21)	24 (22)	22 (14)	25 (18)	23 (16)	24 (21)	21 (16)	297 (221)
	計	18 (10)	32 (25)	27 (20)	34 (23)	27 (19)	29 (22)	24 (22)	24 (15)	27 (20)	23 (16)	25 (21)	21 (16)	311 (229)
一般負傷	重症	7 (3)	8 (5)	4 (4)	11 (5)	3 (1)	12 (7)	10 (4)	5 (1)	9 (6)	4 (2)	4 (0)	8 (6)	85 (44)
	中等症	8 (6)	10 (7)	13 (5)	14 (11)	27 (14)	12 (7)	17 (7)	20 (13)	25 (16)	39 (23)	26 (16)	17 (13)	228 (138)
	軽症	209 (185)	292 (264)	187 (165)	257 (234)	224 (187)	279 (250)	208 (176)	208 (190)	251 (227)	309 (273)	200 (160)	269 (224)	2,893 (2,535)
	計	224 (194)	310 (276)	204 (174)	282 (250)	254 (202)	303 (264)	235 (187)	233 (204)	285 (249)	352 (298)	230 (176)	294 (243)	3,206 (2,717)
自損行為	重症	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
	中等症	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
	軽症	0 (0)	0 (0)	0 (0)	2 (2)	0 (0)	3 (3)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	7 (7)
	計	0 (0)	0 (0)	0 (0)	2 (2)	0 (0)	3 (3)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	7 (7)
急病	重症	7 (2)	10 (6)	5 (2)	10 (4)	10 (4)	9 (8)	12 (10)	2 (2)	8 (7)	6 (0)	0 (1)	9 (6)	91 (52)
	中等症	82 (45)	102 (56)	105 (52)	104 (63)	132 (72)	148 (93)	124 (76)	103 (63)	113 (73)	121 (80)	0 (71)	116 (70)	1,371 (814)
	軽症	186 (151)	213 (174)	189 (141)	294 (224)	344 (249)	276 (219)	222 (178)	186 (144)	261 (199)	306 (261)	0 (183)	222 (157)	2,935 (2,280)
	計	275 (198)	325 (236)	299 (195)	408 (291)	486 (325)	433 (320)	358 (264)	291 (209)	382 (279)	433 (341)	0 (255)	347 (233)	4,397 (3,146)
その他	重症	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
	中等症	1 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	3 (2)
	軽症	4 (4)	6 (5)	3 (3)	6 (6)	4 (4)	7 (7)	4 (4)	4 (4)	5 (4)	5 (5)	0 (3)	4 (3)	56 (52)
	計	5 (5)	6 (5)	3 (3)	6 (6)	5 (5)	8 (7)	4 (4)	4 (4)	5 (4)	5 (5)	0 (3)	4 (3)	59 (54)
合計		522 (407)	673 (542)	533 (392)	732 (572)	772 (551)	776 (616)	621 (477)	553 (433)	699 (552)	814 (661)	0 (455)	666 (495)	7,980 (6,153)
来院方法別	救急車	220 (122)	268 (154)	270 (155)	339 (197)	420 (227)	377 (239)	317 (197)	250 (152)	339 (213)	334 (214)	0 (186)	351 (209)	3,812 (2,265)
	パトカー	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
	その他	302 (285)	405 (388)	263 (237)	393 (375)	352 (324)	399 (377)	304 (280)	303 (281)	360 (339)	480 (447)	0 (269)	315 (286)	4,168 (3,888)
	合計	522 (407)	673 (542)	533 (392)	732 (572)	772 (551)	776 (616)	621 (477)	553 (433)	699 (552)	814 (661)	0 (455)	666 (495)	7,980 (6,153)

()は時間外患者数再掲

消化器内科

文責者名 山本敦史

部門紹介

当科は消化管・肝臓・胆膵疾患を幅広く診療しており、2018年より内視鏡治療センターを稼働しています。食道・胃・大腸の早期癌に対する診断および治療(内視鏡的粘膜下層剥離術, ESD), そして内視鏡的逆行性胆管膵管造影(ERCP)や超音波内視鏡(EUS)を用いた胆膵疾患の診断および治療に特に力を入れています。消化管出血や急性胆管炎といった救急疾患に対しては、24時間体制で緊急内視鏡治療を行っています。

スタッフ

役職	氏名	専門
担当部長	山本 敦史	消化器全般
常勤医	西野 麻美	消化器全般
常勤医	竹岡 祐毅	消化器全般
常勤医	堀 恭樹	消化器全般
常勤医	織茂 智也	消化器全般
常勤医	今福 佳織里	消化器全般
常勤医	松田 玲圭	炎症性腸疾患

役職	氏名	専門
非常勤医	金尾 浩幸	消化管
非常勤医	細野 邦広	胆・膵
非常勤医	大熊 幹二	消化器全般
非常勤医	高木 由理	消化器全般

診療体制

	午前(新患)	午前(予約のみ)	午後(予約のみ)
月	竹岡	西野	織茂
火	西野(第 1,3,5) 高木(第 2,4)	堀	今福
水	織茂	山本	松田
木	今福	松田 高木(第 1,3,5) 西野(第 2,4)	竹岡
金	堀	高木	
土	担当医		

業務統計

	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度
上部消化管内視鏡	2429	2331	2858	2811	2848
ESD	49	45	58	44	60
内視鏡的止血術	45	64	84	61	81
EIS・EVL	21	4	17	14	9
食道・胃・十二指腸 ステント	6	2	11	13	4
下部消化管内視鏡	2638	2607	3014	3224	3159
ポリペクミー・EMR	1012	1253	1521	1634	1611
大腸ステント	11	22	18	34	21
ERCP	222	231	264	286	261
EUS	51	54	123	160	127
EUS-FNA	13	16	17	26	20
ドレナージ	0	2	2	2	1

業績

高トリグリセリド血症による重症急性膵炎に対しインスリン、ヘパリンにて治療効果を認めた一例

濱崎 浩平, 中村 裕佳, 勝尾 知尋, 堀 恭樹, 乾 麻美, 山本 敦史, 杉本 祐一, 松浦 哲也, 大熊 幹二, 松田 玲圭, 鈴木 陽一

2023 年 2 月 25 日 日本消化器病学会関東支部第 373 回例会

総括

これまで内視鏡検査・治療の件数は年々増加傾向でしたが、2023 年度は概ね横ばいで推移しました。幅広い消化器疾患に対応できる体制を引き続き維持できています。

次年度の目標

近隣開業医の先生方との連携を強化し、内視鏡検査・治療の件数増加に努めます。
消化器内科医全体のスキルアップを目指します。

炎症性腸疾患 (IBD) センター

文責者名 松田玲圭

部門紹介

炎症性腸疾患とは、原因不明の腸の難治性疾患をいい、主に潰瘍性大腸炎とクローン病を指します。国の指定難病になっており好発年齢は 20 代から 50 代と若く、人生のライフイベントが疾患の影響を受けやすくなっています。これらの患者数は毎年増え続けています。

2022 年 12 月に IBD センターが開設しました。そして 2024 年 4 月に日本炎症性腸疾患学会の指導施設に認定されました (指導医 松田)。IBD センターでは消化器内科医 3 人による週 2 コマの専門外来を設けて対応しています。ほかにも専任の栄養士、ケースワーカーが患者様を支援する体制があります。潰瘍性大腸炎とクローン病以外にも、好酸球性胃腸炎、腸管ベーチェット病、MEFV 遺伝子関連腸炎などの希少疾患 また 診断のつかない慢性の下痢や腸炎の診察も行っています。

当院外科には大腸肛門科があり、クローン病の肛門病変を有する患者様には連携して迅速に対応することが可能です。診察の対象は 15 歳以上にさせていただきます。

スタッフ

松田玲圭 (炎症性腸疾患学会認定指導医)

西野麻美

高木由理

診療体制

	月	火	水	木	金	土
午前				松田/西野, 高木		松田
午後						

業務統計

	2022 年 10 月	2024 年 5 月
潰瘍性大腸炎	198	254
クローン病	50	61
単純性潰瘍, 腸管ベーチェット	6	6
憩室関連性大腸炎	3	3
好酸球性胃腸炎	3	3
MEFV 遺伝子関連腸炎	4	5
サルコイドーシス	1	1
IBDU*	3	3
計	268	336

*IBDU とは診断のつかない炎症性腸疾患のことを指す

業績

多発血栓症をきたした潰瘍性大腸炎の一例

西野麻美, 七浦 未侑, 勝尾 知尋, 中村 裕佳, 山本 敦史, 高木 由理, 杉本 祐一, 松田 玲圭, 下山 潔

2023年12月1日 第14回日本炎症性腸疾患学会学術集会

総括

2023年度は西野, 松田の二人体制が整い, IBD チームとして入院患者の受け入れや内視鏡治療などもスムーズにできるようになりました。また緊急患者の受け入れも迅速に行えるようになりました。また高木先生も加わり新患対応が充実してきました。

次年度の目標

IBD チームとして多職種と連携して患者様の生活をサポートできるようにしていきたいです。

腸管エコーを診断に導入していきたいです。

他の消化器内科医師でもある程度の症例は診断治療できるように指導していきたいと思います。

循環器内科

文責者名 福島 裕介

部門紹介

循環器内科では、心疾患を中心に幅広い循環器系の疾患を対象に診療活動を行っています。特に、心筋梗塞や狭心症に対する迅速なカテーテル治療に注力しており、地域の医療機関とも連携を強化しています。また、地域の医療体制を支えるために、急性期から慢性期まで一貫したサポートを提供しています。

スタッフ

役職	氏名	専門
循環器内科部長	福島 裕介(令和2年4月1日~)	虚血性心疾患・カテーテルインターベンション
循環器内科副部長	大野 哲(令和4年4月1日~)	不整脈・カテーテルアブレーション
常勤医	結城 翔多(令和6年4月1日~)	循環器一般
常勤医	中田 明道(令和6年4月1日~)	循環器一般
非常勤医	上村 大輔	循環器全般、内科一般
非常勤医	仁田 学	循環器全般、先天性心疾患
非常勤医	清水 学	不整脈・アブレーション
非常勤医	飯田 剛幸	不整脈・アブレーション
非常勤医	高倉 美登里	循環器一般

診療体制

午前 新患	大野	結城	高倉	中田	上村(大)	担当医
午前 予約のみ	結城	-	-	-	-	中田(第1) 大野(第2) 結城(第3) 福島(第4)
午後 予約のみ	福島	中田 仁田	-	福島 大野	-	-

業績

- ・ 第 268 回日本循環器学会関東甲信越地方会
前胸部及び下壁誘導で de Winter Pattern を示した急性心筋梗塞(AMI)の 1 例(大野 哲ほか)
- ・ 第 271 回日本循環器学会関東甲信越地方会
105 歳と超高齢者の完全房室ブロックに対しリードスペースメーカを留置し退院可能であった 1 例(大野 哲ほか)
- ・ 第 271 回日本循環器学会関東甲信越地方会
上大静脈周囲のリントリー性心房頻拍に対してアブレーションを施行した一例(山田 優ほか)

総括

2023 年は、心筋梗塞の早期対応強化に取り組み、地域の医療機関との連携をさらに深めることができました。新たな治療法の導入や、心不全患者に対する包括的なケアの向上により、患者満足度の向上に寄与しました。しかし、2024 年に入り特に診療体制の維持に苦労した一年であり、医師の退職による人員減少の中、残ったスタッフ全員で協力して診療を行っている。

次年度の目標

- ・ **地域連携の強化**: 地域医療機関との連携会を積極的に行う
- ・ **治療の質の向上**: カテーテル治療の最新治療アップデートを行い、積極的な新規機器導入を図る
- ・ **心不全治療の強化**: 心不全教育入院の導入

外科

文責者名 五代 天偉

部門紹介

外科は総院長、院長以下 12 名の常勤スタッフと 6 名の非常勤スタッフで、一般外科、消化器外科、大腸肛門外科、呼吸器外科、甲状腺外科、乳腺外科と幅広くがんの外科治療と救急診療を精力的にこなしています。日本外科学会外科専門医制度指定修練施設、日本消化器外科学会専門医制度指定修練施設、日本大腸肛門病学会認定施設、日本内分泌甲状腺外科専門医制度関連施設などに指定されており、各学会の専門医、指導医を中心に高度な医療を行っています。

スタッフ

役職	氏名	専門・業務
総院長	鈴木紳一郎	大腸肛門科兼務
名誉院長	山本裕司	外科全般
院長	熊切寛	呼吸器外科兼務
藤沢ケアセンター長	田村功	外科全般
緩和センター長	深野史靖	外科全般
副院長	鈴木紳祐	大腸肛門科兼務
外科部長	五代天偉	大腸肛門科兼務
常勤医	伊藤麻衣子(令和 5 年 4 月~)	外科全般
常勤医	高村卓志(令和 5 年 4 月~)	外科全般
常勤医	鈴木創太(令和 4 年 4 月~令和 6 年 3 月)	外科全般
常勤医	福田敏之(令和 4 年 4 月~令和 6 年 3 月)	外科全般
常勤医	畑山礼(令和 5 年 4 月~令和 6 年 3 月)	外科全般
非常勤医	呉吉男	甲状腺外科
非常勤医	佐々木一嘉	甲状腺外科
非常勤医	田中良明	大腸肛門科
非常勤医	大賀純一	大腸肛門科
非常勤医	清水哲	乳腺外科
非常勤医	本庄優衣	外科全般

診療体制

	月	火	水	木	金	土
午前	鈴木総院長 五代 鈴木創太	鈴木総院長 深野 熊切	鈴木総院長 田村 大賀	山本院長 深野 清水 鈴木紳祐	鈴木総院長 伊藤 佐々木	鈴木総院長 交替制
午後	熊切 高村 田村 福田 鈴木紳祐	伊藤 畑山			田中	

手術 水、木、金曜日 上部内視鏡 土曜日 下部内視鏡 月曜日

業務統計

臓器	術式	平成 26年	平成 27年	平成 28年	平成 29年	平成 30年	令和 元年	令和 2年	令和 3年	令和 4年	令和 5年
乳腺	乳房切除術	2	3	8	4	6	9	13	15	16	20
	乳房温存術	9	10	6	26	20	18	19	20	16	16
甲状腺	亜全摘術	15	7	6	9	2	5	0	4	0	6
	葉切除術	38	64	23	8	17	6	7	5	3	5
	部分切除術	19	15	37	26	43	42	34	33	46	22
副甲状腺	摘出術				5	1	2	3	6	1	0
食道	食道亜全摘術	1	1	1	3	2	0	0	0	0	0
胃・十二指腸	胃切除術	15	11	13	13	7	12	7	14	16	10
	胃全摘術	8	14	10	9	18	7	8	7	5	9
	鏡視下切除術	8	18	18	5	11	11	8	12	25	14
	穿孔閉鎖・大網充填術	3	2	5	6	11	1	1	0	2	0
	胃空腸吻合術	4	7	3	3	3	1	1	7	5	3
肝・胆嚢・膵臓	膵頭十二指腸切除術	4	5	1	6	5	11	10	7	10	5
	胆摘術	14	11	5	13	3	11	11	5	12	8
	腹腔鏡下胆摘術	60	81	75	70	82	93	94	105	107	108
	総胆管切開術	3	8	4	4	5	5	2	0	2	2
	肝部分切除	9	13	11	7	6	8	2	2	2	0
	胆管空腸吻合			1	1	1	0	0	0	0	0
小腸	部分切除術	15	7	19	14	6	15	10	12	55	55
	癒着剥離術	9	5	9	5	21	18	16	15	23	14
	内視鏡下手術	3	0	0	4	0	1	0	1	30	19
	穿孔閉鎖術	3	16	8	13	1	4	2	6	15	26
											令和4年より 結腸含む
虫垂	虫垂切除術	33	7	7	5	0	3	3	1	3	3
	腹腔鏡下虫垂切除術	32	57	44	47	54	77	49	63	65	55
ヘルニア	根治術	26	26	38	27	30	21	33	21	43	23
	腹腔鏡下根治術	95	108	78	93	90	92	91	66	63	99
その他	腹膜炎、ストマ造設、ストマ閉鎖	46	33	26	29	31	26	35	24	22	19
	膿瘍ドレナージ、ポート、シャントなど	19	27	43	48	35	30	39	25	41	46
合計		590	558	499	503	511	529	498	476	628	587

業績

講演

- 2023年12月 大腸癌の診断と治療
大鵬薬品 社内講演会(五代天偉先生)
- 2024年2月 右側結腸癌における手術検討
神奈川下部消化管ビデオクリニック ビデオアドバイザー(五代天偉先生)

論文

なし

学会発表

- 2023年4月 Comparison Of Robotic-Assisted Rectopexy And Laparoscopic Rectopexy For Rectal Prolapse
The KSERS 53th Annual Congress(Shinsuke Suzuki)
- 2023年6月 ロボット支援下手術におけるチャーシュー型ガーゼの有用性
第48回日本外科系連合学会学術集会(鈴木紳祐先生)
- 2023年7月 直腸脱に対する腹腔鏡下直腸前方固定術と腹腔鏡下直腸後方固定術の比較
第78回日本消化器外科学会総会(鈴木紳祐先生)
- 2023年9月 10-year cohort study of a case of incarcerated obturator hernia requiring emergency surgery.
18th Annual International Congress of the Asia Pacific Hernia Society(Takashi Koumura)
- 2023年9月 A 10-YEAR RETROSPECTIVE STUDY OF A CASE OF INCARCERATED FEMORAL HERNIA REQUIRING EMERGENCY SURGERY.
18th Annual International Congress of the Asia Pacific Hernia Society(Toshiyuki Fukuda)
- 2023年10月 閉塞性大腸癌に対するステント留置症例の緊急手術の検討
第15回日本 Acute Care Surgery 学会学術集会(高村卓志先生)
- 2023年11月 直腸脱に対する腹腔鏡下直腸前方固定術と腹腔鏡下直腸後方固定術の比較
第31回JDDW(鈴木紳祐先生)
- 2023年11月 大腸ステント留置症例における化学療法の検討
第85回日本臨床外科学会学術集会(高村卓志先生)
- 2023年11月 閉塞性大腸癌に対するステント留置症例の検討
第11回大腸ステント研究会(高村卓志先生)
- 2023年11月 直腸脱に対して、ロボット支援下直腸前方固定術を施行した9例
第78回日本大腸肛門病学会学術集会(鈴木紳祐先生)
- 2023年11月 MSI-High 大腸癌に免疫チェックポイント阻害剤が著効
第78回日本大腸肛門病学会学術集会(鈴木創太先生)
- 2023年11月 直腸脱に対する腹腔鏡下直腸後方固定術と腹腔鏡下吊り上げ固定術の比較
第78回日本大腸肛門病学会学術集会(福田敏之先生)
- 2023年12月 巨大鼠径ヘルニアに対し術中膀胱内圧を測定し腹腔鏡下ヘルニア修復術を施行した2例
第36回日本内視鏡外科学会総会(畑山礼先生)
- 2024年2月 当院における85歳以上の高齢胃癌患者に対する手術成績の検討
第96回日本胃癌学会総会(伊藤麻衣子先生)
- 2024年3月 直腸脱に対してロボット支援下直腸前方固定術を施行した9例
第17回日本骨盤臓器脱手術学会学術集会(鈴木紳祐先生)
- 2024年3月 ロボット支援下S状結腸切除術後1ヶ月目に腸間膜欠損部に生じた内ヘルニアの1例
第60回日本腹部救急医学会総会(鈴木紳祐先生)
- 2024年3月 当院における鼠径部ヘルニア嵌頓の治療成績
第60回日本腹部救急医学会総会(福田敏之先生)
- 2024年3月 経肛門的直腸異物除去のため腸管切開を必要とした1例
第60回日本腹部救急医学会総会(畑山礼先生)

総括

令和 5 年度の外科の手術件数は、新型コロナウイルス感染の影響も続く中、減少することなく年間 500 例を越えました。大腸肛門科とあわせた手術件数では 1000 件を越えています。近隣のクリニックや病院からの紹介患者の受け入れを積極的に行い、緊急手術に対しても麻酔科の協力を得て、スムーズに行えていると考える。

手術に関してはロボット手術の適応拡大もあり、良悪性疾患を含め年間 50 例に達しました。本年よりロボット支援下直腸固定術は先進医療(自費診療)として扱っています。

当院外科は今後も救急疾患を含めたあらゆる外科疾患に対応し地域医療に貢献する所存である。

次年度の目標

多忙で厳しい毎日であるが楽しくアクティブな外科であり続ける。

あらゆる患者を受け入れ救急疾患にいつでも迅速に対応する。

診断、治療から看取りに至るまで患者さんのどのライフステージにも対応する。

若手外科医の経験症例数を増やす。

外科の魅力を伝えて外科医を目指す研修医を増やす。

大腸肛門科 AELIC センター

文責者名 五代天偉

部門紹介

椅子、車を多用する生活様式の中や食生活の変化の影響で大腸肛門病は今や現代病の一つとなっています。増え続ける大腸がんを予防していく一方、5人に4人が悩まされている痔疾患を確実に、より自然に近い形で治療していきたい、また潰瘍性大腸炎やクローン病という炎症性腸疾患 (IBD) を内科的、外科的治療を行いより良い生活を送ってほしい、そんな思いで大腸肛門病の専門センター、AELIC(エイリック)センターを開設しています。

スタッフ

役職	氏名	専門・兼務
センター長	五代 天偉	外科兼務
副センター長	鈴木 紳祐	外科兼務
担当部長	松田 玲圭	消化器科兼務
常勤医	鈴木 創太 (令和4年4月～令和6年3月)	外科兼務
非常勤医	田中 良明	
非常勤医	大賀 純一 (令和5年4月～令和5年12月)	

以下外科		
藤沢ケアセンター長	田村 功	外科兼務
緩和センター長	深野 史靖	外科兼務
院長	熊切 寛	呼吸器外科兼務
常勤医	伊藤 麻衣子 (令和5年4月～)	外科兼務
常勤医	高村 卓志 (令和5年4月～)	外科兼務
常勤医	福田 敏之 (令和5年4月～令和6年3月)	外科兼務
常勤医	畑山 礼 (令和5年4月～令和6年3月)	外科兼務

診療体制

	月	火	水	木	金	土
午前	鈴木総院長	鈴木総院長	鈴木総院長	鈴木紳祐	鈴木総院長	交替制
	五代		大賀			
	鈴木創太					
午後	鈴木紳祐				田中	

手術 水、木、金曜日

下部内視鏡

月曜日

肛門内圧検査

月、火曜日

業務統計

疾患	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
痔核	244	206	222	223	156	200	196	297	369	404
痔瘻	92	82	70	75	72	78	108	128	160	220
深部痔瘻	32	35	14	25	21	22	17	30	165	193
裂肛	47	26	32	28	18	33	30	44	35	19
肛門周囲膿瘍	27	24	18	42	32	52	55	54	66	88
直腸脱	24	28	29	31	44	28	35	43	44	48
結腸癌	49(20)	63(32)	63(25)	47(30)	54(35)	54(37)	58(30)	56(31)	57(29)	64(44)
直腸癌	32(14)	37(18)	31(21)	27(11)	33(24)	39(35)	30(26)	44(37)	46(38)	36(30)
大腸ポリープ	335	249	327	425	915	965	1213	687	394	371
潰瘍性大腸炎、クローン病	6	2	4	2	4	1	1	1	3	0
その他	20	40	13	30	26	41	48	31	31	38
計	908(39)	792(53)	823(48)	955(51)	1375(59)	1513(72)	1791(56)	1415(68)	1370(67)	1381(74)

()内は腹腔鏡下手術
大腸ポリープは内視鏡的切除(ポリペクトミー、EMR)

業績

講演

- 2023年12月 大腸癌の診断と治療
大鵬薬品 社内講演会(五代天偉先生)
- 2024年2月 右側結腸癌における手術検討
神奈川下部消化管ビデオクリニック ビデオアドバイザー(五代天偉先生)

論文

なし

学会発表

- 2023年4月 Comparison Of Robotic-Assisted Rectopexy And Laparoscopic Rectopexy For Rectal Prolapse
The KSERS 53th Annual Congress(Shinsuke Suzuki)
- 2023年6月 ロボット支援下手術におけるチャーシュー型ガーゼの有用性
第48回日本外科系連合学会学術集会(鈴木紳祐先生)
- 2023年7月 直腸脱に対する腹腔鏡下直腸前方固定術と腹腔鏡下直腸後方固定術の比較
第78回日本消化器外科学会総会(鈴木紳祐先生)
- 2023年10月 閉塞性大腸癌に対するステント留置症例の緊急手術の検討
第15回日本 Acute Care Surgery 学会学術集会(高村卓志先生)
- 2023年11月 直腸脱に対する腹腔鏡下直腸前方固定術と腹腔鏡下直腸後方固定術の比較
第31回 JDDW(鈴木紳祐先生)
- 2023年11月 大腸ステント留置症例における化学療法の検討
第85回日本臨床外科学会学術集会(高村卓志先生)
- 2023年11月 閉塞性大腸癌に対するステント留置症例の検討
第11回大腸ステント研究会(高村卓志先生)
- 2023年11月 直腸脱に対して、ロボット支援下直腸前方固定術を施行した9例
第78回日本大腸肛門病学会学術集会(鈴木紳祐先生)
- 2023年11月 MSI-High 大腸癌に免疫チェックポイント阻害剤が著効
第78回日本大腸肛門病学会学術集会(鈴木創太先生)
- 2023年11月 直腸脱に対する腹腔鏡下直腸後方固定術と腹腔鏡下吊り上げ固定術の比較
第78回日本大腸肛門病学会学術集会(福田敏之先生)
- 2024年3月 直腸脱に対してロボット支援下直腸前方固定術を施行した9例
第17回日本骨盤臓器脱手術学会学術集会(鈴木紳祐先生)
- 2024年3月 ロボット支援下 S 状結腸切除術後1ヶ月目に腸間膜欠損部に生じた内ヘルニアの1例
第60回日本腹部救急医学会総会(鈴木紳祐先生)
- 2024年3月 経肛門的直腸異物除去のため腸管切開を必要とした1例
第60回日本腹部救急医学会総会(畑山礼先生)

総括

2023 年度は、鈴木紳一郎総院長、五代医師(外科兼)、松田医師(消化器科兼)、鈴木紳祐医師(外科兼)、鈴木創太医師(外科兼)、田中医師(非常勤)、大賀医師(非常勤)で大腸肛門病を診療しています。AELIC センター大腸肛門科を設立し、10 年目となりました。内科、外科と合同で診療にあたっております。5 月に新型コロナウイルス感染が 5 類に引き下げられ、手術件数も徐々に増加にあります。ロボットも導入 5 年目になり、症例数も安定してきております。

次年度の目標

専門性の高い診断、治療を目指す。
大腸肛門病における救急疾患にいつでも迅速に対応する。
患者のニーズに対応し、満足にいく治療方針を考える。
大腸肛門疾患の魅力を伝えて専門医を増やす。

呼吸器外科

文責者名 熊切 寛

部門紹介

原発性肺がん、転移性肺腫瘍、自然気胸、膿胸、縦隔腫瘍などの手術治療

スタッフ

病院長 熊切 寛

診療体制

外来:月曜日午後、火曜日午前

手術:水曜日

業務統計

疾患別症例数

原発性肺がん:18例 転移性肺腫瘍:5例 良性肺腫瘍:4例

自然気胸:25例 膿胸:5例 その他:3例

術式別症例数

胸腔鏡手術:50例 開胸手術:10例

業績

特になし

総括

年々少しずつ手術症例数が増加している。

次年度の目標

紹介患者の増加、手術症例数の増加、新しい人材の確保

整形外科・健康スポーツ部

文責者名 小柳匡史

部門紹介

2023年4月から北里大学附属病院より角田、みなと赤十字病院のプログラムにより4月から9月までは渡辺、10月から2024年3月まで及川を迎えることになった。総勢10名で診療にあたった。

スタッフ

整形外科

統括部長 大山 晃二

部長 小柳 匡史

担当部長 黒田 元希

担当部長 加藤 卓也

スタッフ 宮田 樹

井窪 元太

角田 祐基

渡邊 都

及川 修平

健康スポーツ部

センター長 福田 潤

副センター長 川口 行雄

診療体制

外来：月から金曜日 午前 3 診 午後 2 診
土曜日 2 診

業務統計

外来患者数: 22569 (1日平均 145) 新患患者数: 3907
入院実人数: 2070 (1日平均 59) 平均在院日数: 15.3 日
手術件数: 1565 (2023 年度)
1309(2022 年度) 1362(2021 年度) 1469(2020 年度) 1687(2019 年度)

業績

第 1 回日本膝関節学会 横浜 2023/12/8-9

OWDTAO(粗面下円弧状骨切り)における AP スクリュー固定時工夫 川口 行雄

総括

手術療法では脊椎、人工関節置換術、鏡視下手術、外傷を軸に行っている。

腰椎固定術にかんしては PLIF XLIF、固定を要しない症例に対しては内視鏡での手術(MEL、MED)を行っている。

・次年度の目標

紹介率を上げるために、分野の専門性を高める。

業務の調整と安全管理に努める。

放射線科

文責者名 田澤 陽子

部門紹介

主としてCT, MRI検査の画像診断を行っています。また各診療科と連携して適正な検査の選択や実施のための対応・調整を行っています。

近隣医療機関からの検査依頼にも対応し、検査画像および読影レポートを提供しています。

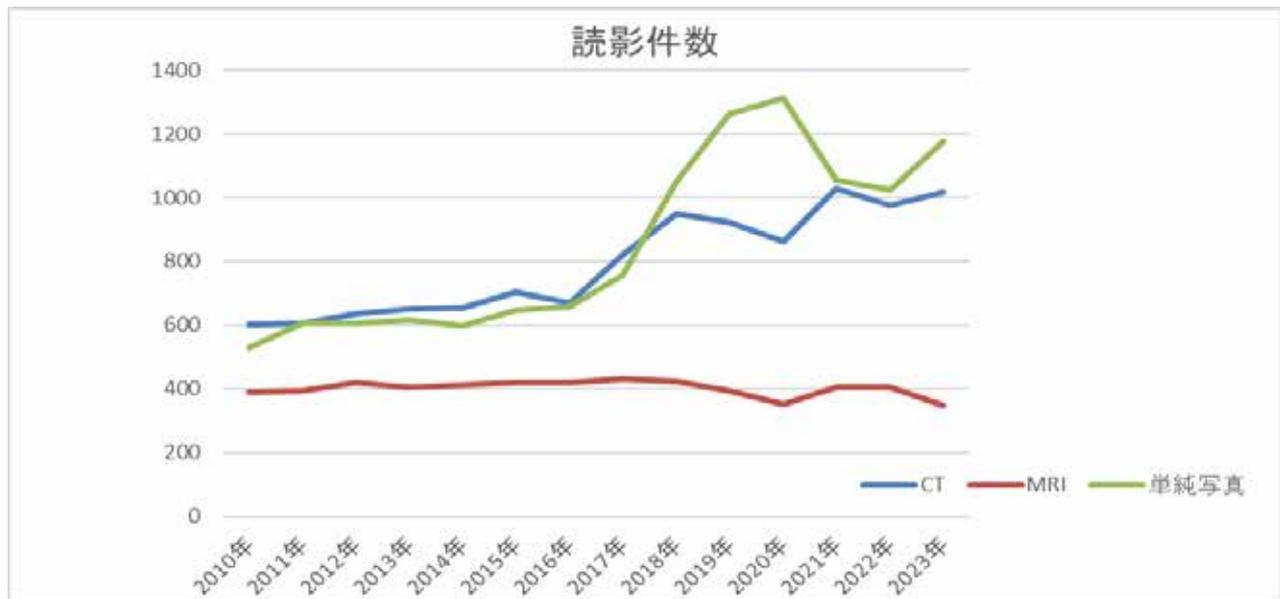
スタッフ

役職	氏名
部長	田澤 陽子
非常勤医	山下 寛高
非常勤医	鈴木 卓也
非常勤医	小橋 優子
非常勤医	福島 徹
非常勤医	塚本 浩
非常勤医	上島 巖
非常勤医	大森 淳二
非常勤医	小林 大地
非常勤医	田川 寛子
非常勤医	藤井 智恵子
非常勤医	山城 恒雄

業務統計

月平均読影件数

	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
CT	601	607	635	652	656	702	668	819	950	922	863	1028	977	1018
MRI	389	393	421	405	411	421	419	430	425	394	352	406	406	348
単純写真	529	607	604	616	596	648	658	758	1050	1264	1312	1056	1023	1176



総括

MRI検査装置の更新を行った。工事期間中は各所にご迷惑をかけることとなったが、画質が向上し検査時間も短縮できた。

画像検査全体の件数は、工事の影響を除いて概ね前年と同程度で、近隣医療機関からの紹介検査の件数についても同様であった。

次年度の目標

常勤医 1 名体制は変わらないが、引き続き非常勤医師の方々と共に診療の充実・質の向上に寄与する画像検査の提供に努めたい。

眼科

文責者名 岡崎 信也

・部門紹介

近隣地域の医療機関、先生方と連携して地域に密着した幅広い眼疾患の治療を行っております。また大学病院等と連携することにより質の高い高度な医療の提供を行っております。常勤医師3名、非常勤医師1名、常勤視能訓練士3名、非常勤視能訓練士1名を中心に診療にあたっております。

・スタッフ

役職	氏名
部長	岡崎 信也
担当副部長	田中 雅恵
常勤医	佐藤 瑞希
非常勤医	長澤 諒

・診療体制

	月	火	水	木	金	土
午前	田中	佐藤	岡崎	佐藤	田中/佐藤	交替制
			田中	長澤		
午後	岡崎	田中	岡崎		岡崎	
	田中/佐藤	佐藤	田中(1,3週)		田中/佐藤	

手術 月、火、金曜日午前 硝子体注射日 第2,4,5週の水曜日午後

・業務統計

	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度
外来実患者数	9120	7823	8574	8599	8301
外来延べ患者数	13815	12036	13080	13371	12237
一日平均	47.2	41.1	44.6	45.6	41.8
新患患者数	1220	1052	1126	1231	1222

	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度
外眼部手術	44	45	49	51	40
網膜硝子体手術	77	69	80	55	41
白内障手術	1134	926	1013	1226	987
硝子体注射	373	367	459	518	599

・総括

白内障手術件数は減少したが硝子体注射は前年度より増加している。紹介患者数はさほど変わらないので硝子体注射症例の紹介が多かったためと思われる。藤沢地区で硝子体注射を行っている施設が非常に少なく今後も増加が予想される。

・次年度の目標

緑内障手術併用の白内障手術、硝子体手術を増やしていく。

泌尿器科

文責者名 大内 秀紀

部門紹介

泌尿器科は、腎、尿管、膀胱、尿道といった尿路と精巣、前立腺をはじめとした男性生殖器の疾患を扱っています。当科で扱う症状として、排尿・蓄尿に関する症状(尿が出にくい、もれる、回数が多い、尿が赤い、排尿する時痛い)、背部痛、下腹部痛、陰部の異常などがあります。

疾患としては、尿路性器腫瘍(腎癌、膀胱癌、前立腺癌、精巣癌、陰茎癌など)

排尿・蓄尿障害(前立腺肥大症、神経因性膀胱、尿道狭窄症、尿失禁、過活動膀胱)

尿路結石(腎結石、尿管結石、膀胱結石)

尿路性器感染症(腎盂腎炎、前立腺炎、膀胱炎、精巣上体炎)などです。

当院では一般的な泌尿器手術を広く行っていますが、2023年度から田部井医師が赴任以降、尿道狭窄、尿路結石の手術が増えています。

スタッフ

役職	氏名
部長	大内 秀紀 (平成 24 年 4 月 ~)
担当部長	田部井 正 (令和 5 年 4 月 ~)
常勤医	仁禮 卓磨 (令和 3 年 4 月 ~)
常勤医	荒木 雄至 (令和 5 年 4 月 ~)

診療体制

		月	火	水	木	金	土
泌尿器科	午前	担当医 (10:00 まで)	大内	田部井 仁禮 荒木	大内 荒木 諏訪	田部井 仁禮 荒木	大内(第 1・3 週) 田部井(第 2・4 週) 担当医(第 5 週)
	午後	[手術]	大内 田部井 仁禮	田部井	大内 荒木	[検査・手術]	

枠の診療は完全予約制。

手術 月、火、水、金曜日

業務統計

手術	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度
膀胱全摘除術	0	1	3	2
回腸導管造設	0	0	1	2
ロボット支援下 前立腺全摘術	24	33	25	22
副腎ラパロ	0	1		2
腎全摘除術(開腹)		0	1	
鏡視下手術()内は内訳				
(腎摘除術)	5	0	1	
(腎尿管全摘除術)	8	6	5	7

経尿道的膀胱腫瘍切除・生検術 (TUR-BT)	70	85	82	70
経尿道的前立腺切除術 (TUR-P)	9	13	19	24
経尿道的前立腺吊上げ術				7
経尿道的尿管結石破砕術 (TUL)	44	35	40	55
経尿道的膀胱結石破砕術	7	15	6	10
経尿道的膀胱止血術	4	3	4	
内尿道切開術	1	1		11
前立腺針生検	105	156	193	124
経皮的尿路結石除去術併用 TUL (ECILS)		0		20
陰嚢水腫根治術	3	3	6	5
高位精巣摘除	4	0	1	
精巣摘除術(両側)	6	5	6	10
包茎手術	4	3	6	10
経尿道的尿管生検	4	5	1	
体外衝撃波結石破砕術(ESWL)	36	46	28	45
人工尿道括約筋手術				2
尿道形成術			2	34
尿管ステント挿入	4	6	2	21
腎瘻造設術				10
陰茎全摘術				1
陰部小手術	2	2	3	
膀胱瘻増設術				10
その他	4	5	6	
計	345	424	439	504

業績

仁禮卓磨: 当院における進行性尿路上皮癌に対するエンホルツマブ ベドチンの初期経験.

第 88 回 日本泌尿器科学会東部総会, 札幌, 2023.10.

田部井 正: 当院における尿道形成術導入後の初期治療成績. 第 67 回日本泌尿器科学会神奈川地方会, 横浜, 2023.9.

田部井 正: Symposium19: Management of iatrogenic urethral injury and stricture/Acute management of iatrogenic urethral injury. 第 110 回日本泌尿器科学会総会, 神戸, 2023.4.

田部井 正: Validation of LSE classification use for patients with anterior urethral strictures in a Japanese referral center. 第 110 回日本泌尿器科学会総会, 神戸, 2023.4.

総括

手術総数は 504 件と昨年度より増加した。

前立腺生検は昨年よりも減少し、124 件であった。

ロボット支援下前立腺全摘術を当院でも導入し、今年度は 22 件とやや減少したが、最近また増加傾向にあり、今後も、前立腺生検をもっと積極的に施行し、前立腺癌の新規患者を増やし、ロボット支援下前立腺全摘術の手術数を増やしていきたい。

腎盂尿管の悪性腫瘍手術は、例年と同程度の 7 件であったが、腎悪性腫瘍手術は減少傾向にある。これは腎癌の手術は腎部分切除術が主流となっており、侵襲少なく手術できるロボット支援下腎部分切除ができる病院へ紹介しているためと思われる。今後はできるだけ当院でも腎部分切除ができるように環境を整えていきたい。

TUR-BT は近隣の泌尿器科開業医からの紹介も多くあり、70 件と同程度に維持できている。今後も、近隣の医院との連携を強めて、症例数を維持、増加していきたい。

尿路結石に対する治療は昨年 3 月から ESWL の装置が新しくなり、件数は 45 件と増加し、以前の装置よりも破碎状況は良好である。昨年度から、結石手術に精通している田部井医師が赴任しており、TUL 50 件 ECILS20 件と結石の手術が増加している。尿路結石の全ての治療ができる病院は近隣でも限られているため、これを売りに結石の手術自体を増やしていきたい。

尿道狭窄の手術目的に他院からの紹介が増えており、引き続き他院とも連携し手術件数を増やしていく。

次年度の目標

- 1) 開業医、他病院に対してさらに当科の信頼を高める。
- 2) ひきつづき腎癌、腎盂尿管癌の新患数を増加させ、腹腔鏡手術件数を増やしていく。
- 3) 積極的に前立腺生検を施行していき、ロボット支援下前立腺全摘の件数を増やしていく。
- 4) 尿路結石、尿道狭窄の手術が軌道にのってきているため、今後も積極的に TUL の症例を増やしていく。

業務統計

	全身麻酔	脊髄くも膜下麻酔 (+硬膜外麻酔)	その他	合計
2004 年度	1105	346	4	1455
2005 年度	1355	370	0	1725
2006 年度	1411	393	1	1805
2007 年度	1539	345	0	1884
2008 年度	1715	336	0	2051
2009 年度	1743	414	0	2157
2010 年度	1715	488	0	2203
2011 年度	1836	496	0	2332
2012 年度	1930	538	0	2468
2013 年度	1852	473	0	2325
2014 年度	1933	531	0	2464
2015 年度	2118	463	0	2581
2016 年度	2206	423	0	2629
2017 年度	2140	485	0	2625
2018 年度	2323	466	0	2789
2019 年度	2299	456	0	2755
2020 年度	2054	524	0	2578
2021 年度	2152	631	0	2783
2022 年度	2318	724	0	3042
2023 年度	2358	766	0	3124

業績

無し

総括

麻酔科管理手術件数は 2020 年度コロナ禍で減少したが2021年度からは上昇に転じている。2023 年度は3124件で過去最高件数であった。外科系各科、麻酔科、手術室看護師、および手術室を支えてくれているスタッフの努力の賜物と言える。

次年度の目標

麻酔科管理件数が増えることは裏返せば麻酔科医への負担が増すことにつながる。過度な負担が生じないように綿密な手術枠の調整と、「持続可能な麻酔科」のためにも各科の協力が求められる。

病理診断科

文責者名 稲山 嘉明

部門紹介

病理発足以来 20 数年間勤務された下山 潔部長が令和 5 年 3 月で退職し、4 月、稲山が後任として赴任した。

当院の病理は、病理(検査)室、病理科、病理部、病理診断科など様々な名称が統一なく使用されてきた。現在多くの病院では、医師部門は病理診断科、技師部門は病理部や病理検査室などと別けて使われることが多いが、職種に関係なく車輪の両輪として機能する部門で、互いに不可分の関係にあるので、事務と相談の上、医師・技師部門あわせて共通の「病理診断科」と呼称することとした。今後、院内掲示やホームページ表記などにおいても整理していただければと考える。

スタッフ

役職	氏名	専門・兼務
病理診断科部長	稲山 嘉明(令和 5 年 4 月～)	病理診断
臨床検査技師、細胞検査士、主任	堀江 政利(平成 17 年 7 月～)	病理検査
臨床検査技師、細胞検査士	郡 由記(平成 16 年 6 月～)	病理検査
臨床検査技師、細胞検査士	増尾 孝実(令和 3 年 9 月～)	病理検査
臨床検査技師、細胞検査士	柏木 麻美子(令和 3 年 11 月～)	病理検査
臨床検査技師、細胞検査士	小山 梨紗(令和 5 年 9 月～)	病理検査
非常勤事務	有江 美香(平成 25 年 2 月～)	事務・業務補助
非常勤医(前部長)	下山 潔(令和 5 年 4 月～)	病理診断

診療体制

省略

業務統計(年度)

種別	平成 24 年	平成 25 年	平成 26 年	平成 27 年	平成 28 年	平成 29 年	平成 30 年	令和元年	令和 2 年	令和 3 年	令和 4 年	令和 5 年
組織診断総数	3983	4065	4284	4287	4180	4349	4772	4655	4609	5424	5528	5609
迅速診断	28	24	32	23	28	52	50	55	57	65	83	73
細胞診	1147	1143	2728	3778	4704	3844	7450	7208	7391	6824	7061	7069
病理解剖	3	4	2	4	0	1	1	2	2	2	2	1
特殊染色	326	389	450	476	454	535	801	769	684	645	562	796
免疫染色	278	509	652	654	634	840	952	1074	938	1280	1371	1300
ブロック数		9016	9686	9575	9227	10363	11412	11450	12071	14403	15497	14823

業績

当院に係るものはない。

総括

業務統計をみれば明らかであるが、令和 5 年度は年間組織件数が 5,600 件を上回り、常勤病理医一人でこなせる業務量を上回ってきており、常勤医 2 名体制を考える時期となっている。細胞診も、本法人では健診業務があるため病床に比して検体数が多い。消化管内視鏡切除標本(EMR, ESD)の検体数増加に伴う技師の切り出し業務の負担増などもあり、技師の補充も必要である。一方で、研修医教育にも必須の病理解剖は、時代の背景もあって、ここ数年 1~2 例で推移している。

備品に関しては耐用年数を超えて稼働している機器類が多い。実際年末には、組織標本作製に必須の自動固定包埋装置が故障し、たびたび業務がストップした。診断精度向上を目指すべく、各種自動機器の新規導入も検討すべきであるが、実現には厳しい現状がある。

次年度の目標

令和 6 年度は 2 号館解体に伴う病理診断科の移設を控え、業務に負荷がかかっている。検査室と一体化していた病理解剖室が独立し、検査室の汚染・非汚染区域の区分けが実現する。後者は労働環境改善に寄与することとなる。移設時期は令和 6 年秋～冬の見込みとされている。引っ越しに際し、結果報告に遅延等が生じないように心がけたい。

当院をとりまく環境に厳しさを増す中で、移設に際して本法人から手厚いサポートを受けており、この場をお借りして謝意を表したい。

救急科

文責者名 龍 信太郎

部門紹介

当院は湘南東部地区医療圏において北部にある中核病院として地域の救急医療に全力を傾け、24時間365日体制で臨んでいる。

スタッフ

役職	氏名	専門・兼務
ERセンター センター長	小泉 泰裕	外科全般
部長	龍 信太郎	総合診療科兼務
副部長	長野 光	総合診療科兼務
常勤医	山崎 舞子	総合診療科兼務
非常勤	中村 京太	救急・麻酔 全般
非常勤	中嶋 賢人	救急全般
非常勤	向 信弘	救急全般

診療体制

救急外来 平日日勤帯 土曜日 13時まで 上級医 2～3名 初期研修医 2～4名

病棟業務 上級医 1～2名

業務統計

2023年度 救急外来受診患者数 8005名(ウオークイン 4191名)

救急車受け入れ台数 3801台(3814名)

総括

新型コロナウイルスの影響もあり、一時期、減っていた受け入れ台数も上昇傾向に転じ、コロナ禍以前の状態に戻りつつある。各科との連携を強化し、引き続き地域の救急医療を支えていく。

次年度の目標

救急外来患者数 10000人

救急車受け入れ台数 4000台

リハビリテーション科

文責者名 齋川 大介

部門紹介

急性期から回復期まで、院内全ての病棟で当科スタッフが介入をさせて頂いています。認定資格等の欄に記載したように専門性の高いスタッフが多数いますので、疾患や病期によらず適切な対応が取れる体制となっています。また臨床教育にも力を入れており、当院独自の卒後教育体制で職員のレベルアップを図っています。

スタッフ

科長 齋川 大介

他スタッフ 常勤理学療法士 22名 非常勤理学療法士 3名

常勤作業療法士 4名 非常勤作業療法士 2名

常勤言語聴覚士 3名

助手 1名 クラーク 2名

認定資格等 日本理学療法士協会 認定理学療法士 脳卒中 2名
日本理学療法士協会 認定理学療法士 運動器 2名
日本理学療法士協会 認定理学療法士 スポーツ理学療法 3名
日本理学療法士協会 認定理学療法士 徒手理学療法 1名
日本理学療法士協会 認定理学療法士 呼吸 2名 日
本理学療法士協会 専門理学療法士 運動器 1名
日本理学療法士協会 専門理学療法士 スポーツ理学療法 1名
三学会合同呼吸療法認定士 8名
がんのリハビリテーション研修会修了者 6名
臨床実習指導者講習会修了者 7名
福祉住環境コーディネーター2級 5名
ドイツ筋骨格医学会認定インストラクター 1名
国際 PNF 協会認定セラピスト 1名 その他

業務体制

外来診療	月曜 ~ 金曜	8:30 ~ 17:00
	土曜	8:30 ~ 13:00
入院診療	月曜 ~ 土曜	9:00 ~ 17:00

業務統計

		外来		入院		Total	
		単位数	割合	単位数	割合	単位数	割合
全体	脳血管	471	0.5%	19309	19.7%	19780	20.2%
	廃用	0	0.0%	14258	14.5%	14258	14.5%
	運動器	20147	20.5%	37348	38.1%	57495	58.6%
	呼吸器	36	0.0%	3622	3.7%	3658	3.7%
	がん	0	0.0%	2869	2.9%	2869	2.9%
		20654	21.1%	77406	78.9%	98060	100%

業績

神奈川県理学療法士協会競技スポーツ支援部主催 スポーツ理学療法士人材育成講習会 講師
「脳震盪と熱中症」2023/11/19

第12回日本理学療法教育学会 学術大会 筆頭演者他 1名
「実習指導者の関わり方が学生の自尊感情に及ぼす影響について」2023/12/9

第11回日本運動器理学療法学会 学術大会 座長
「膝関節 4」2023/10/14

総括

診療実績に関しては前年比 113%と大幅な伸びを見せた。昨年度は新型コロナウイルス感染症の影響が残っていたために総単位数が伸びなかった部分もあったが、今年度の診療実績はコロナ禍以前に戻りつつある事を確認できた。また、藤沢ケアセンターの閉所に伴い年度後半にスタッフの異動があり、急性期及び回復期にとっては人員増となったため、より手厚い対応が可能となった。様々な制約があり困難だった学術活動も徐々に復活してきた。スタッフの更なるレベルアップを進めていきたい。

次年度の目標

来年度は病棟の改修工事に伴うリハビリテーション室の移動が予定されている。診療に影響を出さないように、円滑な移動に向けた準備を進めてゆきたい。

また、来年度はスタッフが増員された状態でスタートを切れる見込みである。これまで以上に積極的な介入を行っていききたい。さらに、診療報酬改定の年にもなるので新たな制度にも対応出来るよう準備を進め、今まで以上に地域の医療に貢献していきたいと考えている。

形成外科

文責者名 篠木 美穂

部門紹介

常勤医師 1 名、非常勤医師 2 名体制
形成外科一般を中心に診療

スタッフ

担当部長	篠木 美穂
非常勤医	前川 二郎
非常勤医	大橋 美華子

診療体制

外来日	月、火、水、金曜日(いずれも午前) 木曜午後 リンパ浮腫外来 水曜日午後に専門外来 or 外来手術
手術日	第 2・4 月曜日(午後)、第 1・3 木曜日(午前・午後)

業務統計

外来実患者数	1332 名(1312)名
外来新患者数	438 名(418 名)
入院実患者数	33 名(44 名)
手術件数	188 件(210 件) (局所麻酔:178 件(194) 全身麻酔:10(12))

総括

人員減により手術件数減少となったが、新患者数は微増している。

次年度の目標

引き続き常勤医一人体制だが、非常勤の方々の力もお借りしつつ診療維持に努めていきたい。

脳神経外科

文責者名 篠原 禎雄

部門紹介

R6年4月より、常勤医が入れ替わりまして下記2名が新たに赴任致しました。当院脳神経外科領域の疾患はまだ歴史が浅く、地域に十分に認識されていないことと思います。今後は外科的処置の必要性に関わらず、広く脳神経疾患の診療にあたってまいります。

当院では、患者様への侵襲性と有効性安全性に配慮して脳血管内治療と開頭手術を選択して治療を行います。脳血管内治療は循環器内科と共用のアンギオ装置で一通りの治療対応が可能です。手術用設備として最新の手術用顕微鏡やニューロナビゲーション、神経モニタリングなどございます。

外科手術の必要性の有無に関わらず、脳血管障害の治療に注力してまいります。そのほか脳腫瘍や脳血管疾患など頭蓋内の器質病変が疑われる症例は、是非御紹介の程宜しくお願い致します。

また、外来におきましては頭痛、手足の麻痺、頭部画像の検査依頼など幅広く対応いたします。

スタッフ

役職	氏名	専門・業務
部長	篠原 禎雄(令和6年4月~)	脳神経外科手術、脳血管内治療
常勤医	小倉 将(令和6年4月~)	脳神経外科手術、全般
非常勤医	市川 輝夫	外来業務

診療体制

	月	火	水	木	金	土
午前			市川		小倉	
午後		小倉	篠原			

手術 月曜日(緊急は随時)

脳血管撮影 月・木曜日

業務統計

疾患内訳	術式	2022 年度	2023 年度
脳腫瘍	摘出術	1	0
脳血管障害	破裂脳動脈瘤クリッピング術	0	0
	未破裂脳動脈瘤クリッピング術	6	3
	開頭血腫除去術	0	1
脳血管内治療	破裂脳動脈瘤コイル塞栓術	0	0
	未破裂脳動脈瘤コイル塞栓術	0	1
	頸動脈ステント留置術	8	0
	経皮的脳血栓回収術	0	0
	その他血管内治療	1	0
頭部外傷	慢性硬膜下血腫	31	14
水頭症	シャント手術	1	0
脊椎脊髄		5	0
末梢神経		12	0
その他	減圧開頭術	1	0
	頭蓋形成手術	0	1
	頭蓋内微小血管減圧術	1	0
	その他		

	2022 年度	2023 年度
脳血管撮影検査	22	2

業績

なし

総括

(スタッフ交代のため割愛)

次年度の目標

入院患者数の増加

当院で脳神経外科診療を行っていることの認知度の向上

薬剤部

文責者名 遠藤 篤

部門紹介

病院理念である“信頼と安らぎのある医療”、“専門性と倫理観のある医療”、“地域に貢献する医療”を実践するために、臨床業務に加えて教育・研修や臨床研究にも積極的に携わっている。

超高齢社会における薬物療法は、高度かつ複雑化しており、質の高い薬剤師の育成が不可欠である。OJT(On The Job Training)とOFF-JTを通じて、地域に貢献できる薬剤師の育成に取り組んでいる。新卒薬剤師の卒後教育に薬剤師レジデント制度を導入しており、現在では、レジデント経験者が新規レジデントを指導する環境が整っている。

また、既卒薬剤師は、各専門分野の知識を活かして業務に携わっている。例えば、公認スポーツファーマシストは、スポーツ愛好者からトップアスリートまでドーピング違反回避の治療に携わっている。さらに、スポーツドクターと協力して治療使用特例(TUE)のサポートや啓蒙活動も行っている。

スタッフ

部長 遠藤 篤

他スタッフ 副部長 1名 主任 1名

常勤薬剤師 17名(レジデント 1名) 非常勤薬剤師 2名

助手 1名 SPD 4名

認定資格	認定実務実習指導薬剤師	4名
	日病薬病院薬学認定薬剤師	4名
	研修認定薬剤師	2名
	がん薬物療法認定薬剤師	1名
	外来がん治療認定薬剤師	2名
	外来がん治療専門薬剤師	1名
	抗菌化学療法認定薬剤師	1名
	栄養サポートチーム専門療法士	1名
	漢方薬・生薬認定薬剤師	3名
	スポーツファーマシスト	2名
	神奈川県糖尿病療養指導士	2名
	吸入指導薬剤師	1名
	周術期管理チーム薬剤師	1名

業務体制

各病棟担当 15名 病棟薬剤業務、薬剤管理指導業務

薬剤部中央業務担当 2名 調剤、製剤、注射薬混合、薬品払い出し、薬剤鑑別等

医薬品情報担当 2名(兼任) DI ニュース作成、医薬品採用関連業務

外来化学療法担当 3名(専任1名、兼任2名)

業務統計

	2022 年度	2023 年度	
薬剤管理指導料	7841	7200	件
退院時薬剤情報管理指導料	3638	3503	件
麻薬管理指導加算	86	58	件
薬剤総合評価調整加算	3	0	件
薬剤調整加算	3	0	件
無菌製剤処理加算	204	232	件
抗悪性腫瘍剤無菌調整加算	1339	1479	件
がん患者指導管理料八	7	18	件
麻酔管理料Ⅰ・Ⅱ(周術期薬剤管理加算)	1216	964	件
外来腫瘍化学療法診療料(抗悪性腫瘍剤)	1227	1416	件
連携充実加算	779	930	件
入院処方箋枚数	50719	51227	枚
注射処方箋枚数(外来)	9625	10909	枚
注射処方箋枚数(入院)	53501	54523	枚
院外処方箋枚数	65164	67491	枚
院外処方箋発行率	82.3	86.6	%
院内外来処方箋枚数	14030	10449	枚
ケアセンター処方箋枚数	2216	1482	枚

業績

【研修会・セミナー】

第2回ジャンプアッププログラム

卒業生・上級生との交流会

2023年4月8日

2023年4月15日

令和5年度第1回 神奈川 がん薬物療法・専門薬剤師セミナー

制吐薬適正使用の基本のキ

2023年5月17日

2023 ショートトラック・チームジャパンセミナー

アンチ・ドーピングについて

2023年5月20日

横浜薬科大学 社会薬学 1

がん治療と薬剤師の関わり方～生命倫理～

2023年7月3日

フィギュアスケート強化指定選手 AD 研修会

フィギュアスケート強化指定選手対象アンチ・ドーピング研修

2023年7月8日

フィギュアスケートジュニア強化指定選手 AD 研修会
フィギュアスケートジュニア強化指定選手対象アンチ・ドーピング研修
2023 年 7 月 29 日

ショートトラックジュニア強化指定選手 AD 研修会
ショートトラックジュニア強化指定選手対象アンチ・ドーピング研修
2023 年 9 月 9 日

ブルーオーシャン湘南薬剤部門研修
2023 年 11 月 6 日-11 月 17 日

ショートトラック強化指定選手 AD 研修会
ショートトラック強化指定選手対象アンチ・ドーピング研修
2023 年 11 月 28 日

第 3 回外来がん化学療法の質向上のための研修会
SOX+ニボルマブ療法
2024 年 2 月 27 日

【学会発表】

日本病院薬剤師会関東ブロック第 53 回学術大会
アプレピタント経口投与をホスネツピタント点滴静注へ変更した患者における有効性と安全性の実態調査
2023 年 8 月 26 日-8 月 27 日

第 33 回日本医療薬学会年会
『外来がん化学療法の質向上のための研修会』への参加に及ぼす行動因子の研究
2023 年 11 月 3 日-年 11 月 5 日

総括

学会活動では、自院の取り組みだけでなく、藤沢市地域薬業連携協議会がん領域部会での研究も発表できたことは、地域に貢献する薬剤師のモデルとして貢献できたと考える。また、薬科大学やスポーツチームとの相互連携により、薬剤師としての院外活動(講義、講演会など)も精力的に実践することができた。さらに、ブルーオーシャン湘南薬剤部門研修は、人事交流に加えて、技術や知識の相互習得が可能であることを確認できた。

次年度の目標

今後、臨床業務だけでなく、教育・研修や学術活動、院外活動にも積極的に携わっていく。一方、過去 10 年の薬系大学卒業生の就職動向を見ると、年々病院・診療所薬剤師に就職する薬学生が減少しており、採用が困難な状況になっている。様々な手段を用いて当院薬剤部の魅力を発信し、質の高い薬剤師を育成・確保していく。また、効率かつ効果的な業務推進のため、業務フローの見直しや非薬剤師の活用、機械化の推進も併せて検討する。

栄養科

文責者名 安田 恵美

部門紹介

栄養科では「安全と満足を提供できる治療食サービスを目指して」入院中の患者様への食事提供に努めています。一般食の方に関しては「基本メニュー」と「セレクトメニュー」をご用意し、患者様にご選択いただけるようにしています。また、スポーツ競技への早期復帰を目指して「スポーツ食」の提供を行っています。ご入院された患者様おひとりおひとりの状態に応じて適切なお食事を提供しています。栄養管理についても、栄養サポートチームをはじめ、褥瘡委員、摂食嚥下チーム等のチーム医療に参加し、他職種とともに活動しながら患者様の栄養管理に取り組んでいます。栄養相談では、入院中はもちろん外来でも行っておりますので、継続した支援を行い、患者様が安心して治療に専念できるように努めています。

スタッフ

(病院職員)

主任 安田 恵美

他スタッフ 主任補佐1名

常勤管理栄養士 3名 非常勤管理栄養士 1名

(給食委託会社:株式会社 LEOC)

常勤管理栄養士 5名

常勤栄養士 2名

常勤調理師 3名

非常勤調理員 11名

業務体制

病院給食業務(株式会社 LEOC)	5:00 ~ 20:00
栄養管理業務	月曜 ~ 金曜 8:30 ~ 17:00
	土曜 8:30 ~ 13:00
栄養指導	月曜 ~ 金曜 9:00 ~ 17:00
	土曜 9:00 ~ 12:00

業務統計

* 病院食数(食)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	食種別計	割合
常食	4,991	4,460	4,669	5,252	5,772	5,184	4,802	4,428	5,398	5,235	4,623	4,851	59,665	31.1%
軟菜食	2,289	2,491	2,822	2,922	3,510	3,315	3,496	2,917	2,982	3,092	2,526	3,124	35,486	18.5%
嚥下食	1,472	2,612	988	1,401	1,745	1,832	1,956	1,573	1,409	1,488	1,696	1,598	19,770	10.3%
検査食	12	31	31	18	13	8	17	21	9	11	9	9	189	0.1%
エネルギーコントロール食	3,417	3,237	3,521	3,441	3,295	3,776	3,978	3,151	2,995	2,952	3,541	3,496	40,800	21.3%
たんぱく質コントロール食	308	36	205	176	51	165	252	646	289	327	315	328	3,098	1.6%
脂質コントロール食	209	259	441	310	321	586	490	625	411	316	407	471	4,846	2.5%
易消化食	1,301	1,246	1,047	1,236	1,415	1,370	1,328	932	1,481	1,550	1,358	1,268	15,532	8.1%
胃切後食	162	200	511	490	169	183	95	146	342	649	400	140	3,487	1.8%
低せんい低脂質食	159	233	158	195	206	165	217	204	201	265	151	255	2,409	1.3%
ペプチドアルギニン	178	201	196	153	190	257	160	309	203	211	152	104	2,314	1.2%
濃厚流動食	258	143	260	182	179	356	495	645	420	492	294	271	3,995	2.1%
合計	14,756	15,149	14,849	15,776	16,866	17,197	17,286	15,597	16,140	16,588	15,472	15,915	191,591	
1日平均食数	492	489	495	509	544	573	558	520	521	535	553	513	525	

* 栄養指導・栄養サポートチーム件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間総計
入院(個別)	73	86	82	81	60	75	79	82	87	72	83	70	930
外来(個別)	42	38	53	47	47	49	54	44	39	49	38	43	543
外来化学療法(加・非加算)	22	29	36	29	22	20	24	27	19	39	30	28	325
外来(腸活)	0	0	0	0	1	1	0	3	1	1	2	3	12
栄養指導 合計	137	153	171	157	130	145	157	156	146	161	153	144	1,810
栄養サポートチーム	54	46	56	47	63	56	55	60	54	51	50	33	625

業績

市民講座「いきいき健康講座」～腸活で健康寿命を延ばそう～（2023年11月22日 こぶし荘にて開催）

総括

栄養管理に関しては、「シームレスな栄養管理を行い、低栄養の患者様を見逃さないようにする」ことを目標に掲げていました。糖尿病の教育入院後や消化器外科の術後など長期的な支援が必要なケースは退院後の外来にて栄養相談を継続することを強化しました。入院中のように食事を準備することは大変でご苦労される方も多いため支援を継続して参ります。食事提供に関しては、食事アンケート調査をもとに「やわらか食」の調理の工夫や食材の見直し等を行いました。治療食の献立構成の改善も行い日々給食委託会社と協力し改善に努めています。

次年度の目標

- ・「シームレスな栄養管理を行い、低栄養の患者様を見逃さないようにする」は継続目標として入院から外来へと栄養相談の必要な患者様を支援していきます。
- ・低栄養の診断基準「GLIM 基準」の考え方をもとに栄養管理体制を見直し、院内に周知・活用できるようにします。
- ・食事提供に関しては、各食種の献立構成・調理の仕上がり等を再評価・見直しを行いより良い食事提供を目指していきます。

手術室

文責者 原田 高志

部門紹介

手術室は5室と外来手術専用手術室1室があります。手術に必要な高度な医療機器が揃っており外科系各科、麻酔科、手術室看護師、臨床工学技士等が協力して手術を安全に行っています。

手術室はまさに医療の最前線であり、多くの命が救われるところです。

スタッフ

役職	氏名	専門・兼務
室長	原田 高志	麻酔科部長と兼任
看護師	20名	
クレーク	2名	

診療体制

		午前	午後
月	①	整形外科	整形外科
	②	整形外科	整形外科
	③	脳神経外科	脳神経外科
	④	泌尿器科	泌尿器科
	⑤	泌尿器科	泌尿器科
	⑥	眼科	眼科(第2・第4週) 形成外科(第1・第3週)
火	①	整形外科	整形外科
	②	整形外科	整形外科
	③	整形外科	整形外科
	④	整形外科	整形外科
	⑤	泌尿器科	整形外科
	⑥	眼科	皮膚科
水	①	外科	外科
	②	外科	外科
	③	外科	外科
	④	外科	外科・整形外科
	⑤	外科	泌尿器科
	⑥		眼科(第2・第4週)
木	①	整形外科	整形外科
	②	整形外科	整形外科
	③	外科	外科
	④	外科	外科
	⑤	形成外科・外科・ 整形外科	形成外科・外科・ 整形外科
	⑥	形成外科	形成外科・外科・ 整形外科
金	①	整形外科	整形外科
	②	整形外科	整形外科
	③	外科	外科
	④	外科	外科
	⑤	泌尿器科	泌尿器科
	⑥	眼科	眼科
土		局麻手術	

業務統計

	全身麻酔	脊髄くも膜下麻酔 (+硬膜外麻酔)	局所麻酔	その他	合計
2005 年度	1355	370	520	0	2245
2006 年度	1411	393	528	1	2333
2007 年度	1539	345	712	0	2596
2008 年度	1715	336	733	0	2784
2009 年度	1743	414	666	0	2823
2010 年度	1715	488	603	0	2806
2011 年度	1836	496	792	0	3124
2012 年度	1930	538	1147	0	3615
2013 年度	1852	473	1209	0	3534
2014 年度	1933	531	1438	0	3902
2015 年度	2118	463	1174	0	3755
2016 年度	2206	423	1192	7	3828
2017 年度	2140	485	1565	0	4190
2018 年度	2323	466	1712	1	4502
2019 年度	2299	456	1877	0	4632
2020 年度	2058	524	1648	0	4230
2021 年度	2152	631	1808	0	4591
2022 年度	2318	724	1887	0	4929
2023 年度	2358	766	1739	0	4863

業績

なし

総括

手術件数は2020年度コロナ禍で減少したが、その後増加に転じ5000件の大台も見えてきている。外科系各科、麻酔科、手術室看護師、手術室にかかわるすべての方々の努力の賜物といえるだろう。

次年度の目標

手術件数が増えるにつれ手術室スタッフとくに看護師への負担が大きくなる。過度な負担にならないよう看護師の適正配置、手術室運用、看護教育等に気を配って安全な手術室運営に心がけたい。

臨床検査室

文責者名 遠藤 登萌

部門紹介

検体検査(血液・尿など)の検査を行っています。

スタッフ

部署責任者 遠藤 登萌

他スタッフ 臨床検査技師 4名

事務スタッフ 2名

業務体制

生化学、血液学、尿一般沈査、輸血検査
他 細菌、院内測定できない検査は外注

業務統計

院内測定検査

院内測定数

	2023年	2022年	対前年比
4月	4,309	4,067	5.60%
5月	3,984	3,975	0.20%
6月	4,641	4,666	-0.50%
7月	5,088	4,535	10.90%
8月	5,930	4,664	21.30%
9月	6,486	4,627	28.70%
10月	5,532	4,544	17.90%
11月	5,171	4,578	11.50%
12月	5,043	4,447	11.80%
1月	5,293	4,711	11.00%
2月	5,201	4,372	19.00%
3月	5,416	4,819	12.40%

外注数

2024年
3,235
2,710
3,515
3,337
3,414
3,523
3,514
3,204
3,215
3,516
3,199
3,363

総括

2023年7月に本社を都築へ移転。この際に院内で測定できる検査はすべて院内測定へ変更。
この際、外注検査に関して多大なご迷惑をおかけしました。

次年度の目標

院内機器の入れ替え等が入りますのでこの際に遅延等なくなるようにしていきます。

中央放射線科

文責者名 穴見 貴史

部門紹介

一般撮影や CT 検査、X 線 TV、MRI 検査、血管撮影など様々な検査を行っています。

24 時間体制で緊急検査にも対応しています。

日々、専門知識や技術向上に取り組み、放射線科医師と連携し業務に臨んでいます。

MRI や CT 検査は、近隣病院やクリニックに共同利用して頂いており、多くの患者様が検査に来られています。

患者様に寄り添う医療を提供するため、放射線被ばくや医療機器管理等も重視し、安心・安全に検査を受けて

頂く事を 1 番に考えています。

スタッフ

科長 穴見 貴史

他スタッフ 主任 2 名

常勤放射線技師 9 名 非常勤放射線技師 3 名

認定資格 CT 認定技師 1 名 救急認定技師 1 名

マンモグラフィー認定技師 2 名 IVR 認定技師 1 名

画像等手術支援認定技師 1 名

施設認定 日本医学放射線学会画像診断管理認証施設

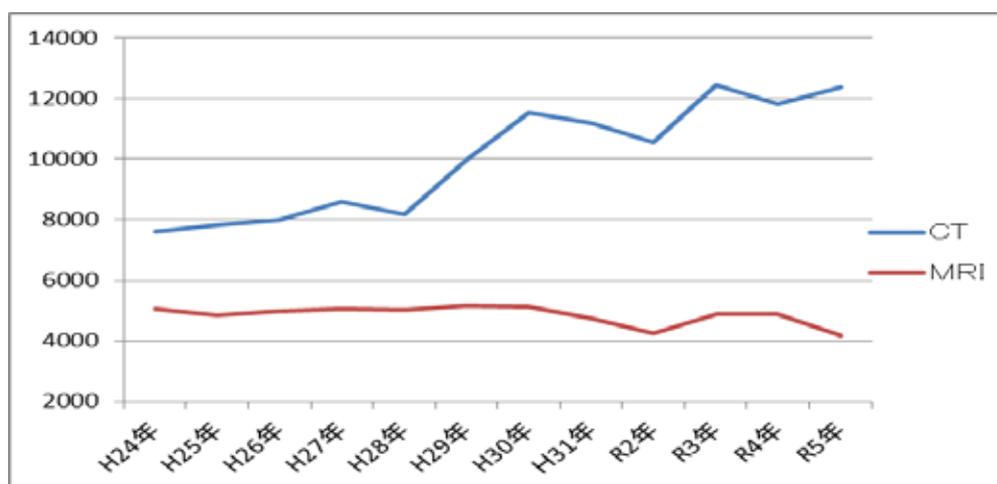
MRI 安全管理認証施設 (MRI 対応ペースメーカー・神経伝達システム撮影可能)

業務体制

CT、MRI、一般撮影、X 線 TV、血管撮影、ポータブル撮影、マンモグラフィー、健診、ドック等の検査を 8~9 名の技師で行う。

業務統計

	H24年	H25年	H26年	H27年	H28年	H29年	H30年	H31年	R2年	R3年	R4年	R5年
CT	7615	7809	7988	8598	8179	9972	11543	11185	10575	12452	11837	12367
MRI	5056	4860	4976	5066	5022	5163	5130	4723	4240	4867	4895	4191
一般撮影	33128	33490	33764	35971	37625	40595	43000	40929	38029	39358	40205	42021
IVP	62	43	39	17	15	8	5	2	3	2	1	1
心カテ	113	151	267	329	320	451	531	504	436	452	445	447
脳angio										19	40	3
胃透視	1841	1842	1826	1946	2135	2390	2624	2632	2009	2363	2482	2383
マンモグラフィ	1112	992	1148	1826	2895	3540	4169	4258	4196	4016	4026	4125
その他透視	974	1130	1131	1217	1178	1131	1111	1129	1050	1106	1110	1258
ホータブル	2915	2874	3381	3326	3854	3758	4597	4155	4869	3453	4496	4341
総件数	52816	53191	54520	58296	61223	67021	72716	69517	65408	68088	69537	71137



業績

【研究会・講習会】

福島救急画像診断研究会	2023年4月21日
第14回静岡CT研究会	2023年5月20日
第17回山口CT UPDATE SEMINAR	2023年6月17日
第19回 Tokyo ER Meeting	2023年6月24日
第1回西部地区勉強会	2023年11月11日
令和5年Ai研修会	2023年11月13日～
Tokyo CT Technology Seminar	2024年1月27日
第1回日本大腸CT技術研究会	2024年2月3日
診療放射線技師臨床実習指導者講習会	2023年10月14日、15日

総括

7月にマンモグラフィー装置と12月にMRI装置を更新した。MRI装置は更新工事が1ヶ月程掛かり、例年と比較すると検査数はやや減少した。その他の検査に関しては、増加傾向であった。

スタッフも常勤、非常勤合わせて15名体制となり緊急検査に対してもスムーズに対応出来ている。

CTは検査数も多く、装置の使用年数もかなり経過している。新規装置への更新を考えていきたい。

若いスタッフも増えたため、勉強会や研究会等、教育に力を入れた。

次年度の目標

新規CT装置を導入し、新しい撮影技術の習得や患者様の被ばく低減をより実現出来るようにする。

画像サーバーの更新時期なので遅滞なく準備を進めて行く。

引き続き、スタッフ教育に力を入れ、事故・トラブルが起きないよう細心の注意を払って行く。

看護部

文責者名 柳田 明子

看護部紹介

看護部は看護部事業計画に沿って看護部目標を立案し、活動している。各部署・各部会の年間活動計画をふまえて目標達成評価を行なっている。急性期病棟と後方支援病棟が看看連携を図りながら「生命・生活・尊厳」を守り支える看護を提供している。

業務統計

	入職数	退職数	離職率	残業時間	有休取得率
2023 年度	40 名	41 名	15.9%	8.11 時間	63.2%
2022 年度	35 名	55 名	20.9%	7.4 時間	70.5%

教育、研究

教育担当者のページ参照

看護部概要

1) 看護部方針

- (1) 患者の生命の安全を守り、個人の尊厳・プライバシーを尊重した看護の実践
- (2) 患者の持てる力・回復力・自然治癒力を高め、その人らしい生活を支える看護の実践
- (3) 地域の人々の健康な力を高める看護の実践
- (4) 専門職としてより高い知識と技術の修得
- (5) 豊かな人間性を育み、倫理観・感性を磨く

2) 看護部目標

- (1) 看護職員の確保・定着
- (2) 看護職員の質の向上
- (3) 病床機能を意識したベッドコントロール
- (4) 病院建て替え計画への参画
- (5) 湘南東部地域における役割を発揮する

3) 看護部活動概要

令和5年度は看護部目標5つのうち、「看護職員の確保・定着」「看護職員の質の向上」「病床機能を意識したベッドコントロール」を重点課題として取り組んだ。

(1) 看護師の確保・定着では院内採用活動やSNSを用いた広報活動、インターンシップ受け入れ実習校からの継続的な入職、学校訪問、看護フォーラムへの参加を行なった。SNS閲覧数は目標値を大きく上回ったが、よりアクセス数の増加と採用面接希望者確保のため、職員のフォローを増やしていく。

新たな取り組みとして保護者同席の説明会を実施した。学校説明会は昨年の7校に対し7月から開始し22校実施し、入職につながった実績もあるので、次年度も継続して実施していく。

看護職員の定着についてはモチベーションアンケートを年4回実施し仕事への充実感や意欲について確認を行なった。その他、面談実施や入職者の就業情報の共有、人材確保担当者がラウンド、労務管理を含め、多方面から支援を実施した。

(2) 看護職員の質の向上では教育面ではキャリアラダーレベルに合わせた院内研修受講や院外研修受講による専門的知識の習得ができた。また、認定看護師養成課程や医療安全管理研修の履修は看護の質のさらなる向上につながると思われる。自己研鑽ツールとしてE-ラーニングの活用も可能であるが、今年度は

前年度と比較して活用率が 30%も減少しているため、成人学習に必要な動機付けを明確にして活用していくことが課題である。

キャリアラダーレベル (確定者/取得中)

2024 年 3 月 31 日現在

					未取得者
17 名/0	27 名/17 名	4 名/75 名	5 名/33 名	2 名/10 名	19 名

(3)病床機能を意識したベッドコントロールについては病床稼働率を上昇させることを目的に稼働率アッププロジェクトが発足した。診療部との空床情報の共有を図りながら病床管理を行なうことで稼働率は平均して 80%以上となった。また、診療報酬改定に伴い受入病棟の変更も行なった。

4)看護部委員会活動

(1)副師長会

「看護サービスの向上」と「専門性のある看護が実践できる人材の育成」をビジョンに活動を行なった。具体的内容は指示書をもとに看護補助者へ移送のタスクシフト、技術習得システムの構築(技術経験表の確認と看護補助者研修担当)、アナムネーゼ入力、動画オリエンテーション実施を行なった。

(2)教育委員会 基礎教育部会

「専門性のある看護が実践できる人材の育成」「互いを認め尊重し合える人材の育成」をビジョンに活動を行なった。(主な研修プログラムは教育担当者年俸を参照)

キャリアラダー判定会の開催で 36 名の看護師がキャリアラダーを確定することができた。JIBUN キャリアの自己目標達成度は 76%という結果であり、個々のスキルアップにつながっている

(3)教育委員会 実践教育部会

「専門性のある看護が実践できる人材の育成」をビジョンに活動を行なった。(主な研修プログラムは教育担当者年俸を参照)今年度は新規プログラムを 5 つ実施し、研修内容に多様性を持たせることができ、参加対象者も拡大できた。一方、年間予定に掲げていたが開催できない研修もあったので準備・計画の再調整が必要である。

(4)教育委員会 臨床指導者部会

「安全で質の高い看護の提供」「互いを認め尊重し合える人材の育成」をビジョンに活動を行なった。今年度は看護師養成校 6 校受入れた。実習は感染対策に留意しながら実施した。実習ごとに指導案を作成し、教員とも連携を図りながら進めることができた。高校生の 1 日看護体験(2 回)にも対応協力した実習受入が増えているため、臨床実習指導者の育成にも努めた

(5)業務委員会 安全部会

「安全で質の高い看護の提供」をビジョンに活動を行なった。安全面についてはヒヤリハット(レベル 0~1)の報告を増やし、インシデント・アクシデントの発生防止に努めた。件数は前期 29 件に対し、後期は 36 件とわずかだが増加した。マニュアルを逸脱したインシデントや繰り返されるインシデントを減少するための是正カンファレンスも継続して実施していく。

院内暴力時のコードホワイトや夜間のドクターハートの運用も開始され、より安全面への意識が向上した

(6)業務委員会 業務改善部会

「安全で質の高い看護」「看護サービスの向上」をビジョンに活動を行なった。安全で質の高い看護では看護手順の改訂・新規作成を 8 項目、インシデント発生時にマニュアルを用いてカンファレンスを行なうことでマニュアルの改善点に着眼でき、改訂することができた。

看護サービス向上では主にタスクシフトとして看護手順の改訂と入院・退院・手術オリエンテーションの動画作成ができたことは説明業務の大きな改善につながると思われる

(7)業務委員会 防災部会

「安全で質の高い看護の提供」「専門性のある看護が実践できる人材の育成」をビジョンに活動を行なった。アクションカードの作成、使用による検証、見直しを行なった。アクションカードを使用した訓練も継続して実施していく。アクションカードの周知・啓発目的で You Tube®による動画配信での勉強会と学習後のテストで理解度の確認も実施した。

(8)業務委員会 記録部会

「安全で質の高い看護の提供」をビジョンに活動を行なった。部会を記録監査・看護診断・記録基準改定・看護必要度の 4 つのチームに分けて活動した。看護記録は監査時も確認されることが多く、必要な記録が適切に書かれているかの確認は必須である。また、正確な看護必要度の評価は診療報酬へも関与する

ため、定期的な学習は不可欠である。

(9)業務委員会 感染部会

「安全で質の高い看護の提供」をビジョンに活動を行なった。感染対策の勉強会参加は 100%と必須条件を満たすことができた。部会中心で感染防止対策強化として PPE ラックの設置や手指衛生剤の使用量アップに努めた。

1 患者あたりの手指衛生剤使用量も WHO 推奨の 16 回に対し約 10 回と増加してきているので継続して実施していく

(10)看護補助者会

「看護サービスの向上」をビジョンに活動を行なった。看護部主催の看護補助者研修で看護技術の演習。や技術習得状況把握(看護補助者経験表)のもと、指示書を用いたタスクシフトを開始することができた患者への対応方法の理解として認知症ケアについての研修も実施した

(11) クラーク会

「看護サービスの向上」をビジョンに活動を行なった。クラークを 2 名体制とし、面会制限緩和に伴う面会時対応や看護業務のタスクシフトとしてアナムネーゼ入力タスクシェアや説明動画のセッティングも依頼することができた

総括

2023 年度は 5 つの目標を掲げて取り組みを開始した。病院建て替え計画への参画については病院の当初の建て替え計画が変更になり、病院建て替えプロジェクトの在り方が変更になっていることにより具体的な取り組みが実施できていない状況にある。

湘南東部地域における役割を發揮するについては「急性期病院として地域医療に貢献する」「紹介重点医療機関としてかかりつけ医との連携」が主たる活動になるため、積極的な活動は行っていない。

看護部としては病院理念に掲げている「信頼と安らぎのある医療」「専門性と倫理観のある医療」「地域に貢献する医療」をもとに課題を抽出した。信頼と安らぎのある医療や専門性と倫理観のある医療では看護実践能力の向上や倫理観を高めること、研修参加による専門的知識の獲得や安全に対する意識や行動も重要であるため、教育の充実や職場環境の整備が必要と考えた。地域に貢献するためにはベッドコントロールをはじめとした病床管理が必要であることから次年度は 3 つの課題を見出し目標とした

次年度の目標

1)安全で質の高い看護を提供する

繰り返し起こるインシデントについては振り返りカンファレンスの持ち方やファシリテーションスキルが必要である。しかしながら、カンファレンスの雰囲気によっては心理的安全性が確保できず、効果的な話し合いができていないことがある。そのため、心理的安全性やコミュニケーションについて各自が理解し、カンファレンスで躊躇なく意見が言えるような環境となるような取り組みが必要である。

積極的に報告する文化の醸成により、レベル 0~1 の軽微な事象を積極的に報告することで、重大インシデントの発生を防ぎ、安全で質の高い看護を提供する。

2)互いを尊重し、イキイキと働き続けられる環境づくりに努める

毎年、30 余名の看護師を採用しているが、ほぼ同数の退職者もでている。人材の定着、看護配置数の維持のためワークライフバランスや健康管理をおこなう必要がある。

そのための取組として、モチベーションアンケートを定期的実施し、スタッフが何に悩み、モチベーションに支障をきたしているのかを早期に把握し、解決のための支援を行えるようにする。また、時間外労働時間を最小限にするために、業務の見直しおよび改善を行なう

3)病床機能を活かしたベッドコントロールに努める

病院の方針である病床稼働率 85%を維持し、円滑なベッドコントロールを実施するためには、入院予定期間内で退院ができること、そのためには入院時から退院支援が必要である。そのための取組として、退院支援に必要な知識の習得、意思決定支援、看護師間連携、他職種連携を行うための仕組みづくりを行なう



看護部門 人材確保担当

文責者名 保木 富士子

活動内容

1. 施設見学・就職説明会(院内・院外)および採用試験の対応
2. 採用者入職準備、入職時対応、入職後の支援
3. 中途採用者研修(看護師、介護福祉士、介護・看護補助者、クレーク、臨床検査技師)企画運営
4. 資料請求者への送付
5. 新人看護職員の卒業校への近況報告および資料送付
6. インターンシップ受け入れの準備と運営
7. 看護学校訪問の連絡調整

業務統計

1. 看護師入職、退職数(異動者含む)

入職数	40名
退職数	41名
合計	-1名

2. 介護福祉士、介護・看護補助者、臨床検査技師、クレークの入職、退職数(異動者含む)

入職数	23名
退職数	14名
合計	+9名

3. 看護師離職率

常勤	16.1%
非常勤	15.0%
全体	15.9%

4. 院内 看護師就職説明会・採用試験(定例:毎月1回)

説明会	38名
採用試験	33名
合計	71名

5. 施設説明会・面接(随時) 看護師・看護補助者・クレーク

説明会	11名
採用試験	44名
合計	55名

6. 資料請求数

郵送	77件
Web 閲覧	69件
学校等送付	801件
合計	947件

業績

1. 確保対策

- 1) 病院説明会・見学会、採用試験対応(定例及び随時)
(1)12月の病院説明会・病院見学を保護者同伴とし5名の保護者が参加
- 2) 就職説明会 8回
(1)各学校からの要請により出席:3校(神奈川県立保健福祉大学・湘南看護専門学校・横浜創英大学)
(2)就職説明会の参加:キャリアス看護フォーラム札幌開催3回、SMS 合同就職説明会札幌開催1回
(看護部長・人事課担当者・看護師)
(3)オンライン合同説明会参加(看護部長・人事課担当者・看護師)
- 3) 新卒新採用入職前オリエンテーション(保護者同席可能) 入職予定者25名 保護者6名参加
- 4) インターンシップ(就業体験)
(1)2023年夏 7月27日(木)2名、7月28日(金)4名、8月3日(木)7名 合計13名
(2)2024年春 3月15日(金)3名、21日(木)2名、22日(金)7名 合計12名
- 5) 資料配布 資料請求77部、病院配信801部
- 6) 看護部パンフレット見直しと改訂

2. 定着対策

- 1) オリエンテーション:採用者随時(看護師・看護補助者・臨床検査技師・クレーク)
- 2) 入職後フォローアップラウンドして状況を確認16回78名(同一者複数回あり)

3) 中途採用者研修企画運営

- (1) 看護師中途採用者研修の企画運営 6月6名、8月3名、12月4名 合計 13名参加
- (2) 看護補助者・クラークのフォローアップ研修の企画運営 5月1名、7月6名、9月5名、11月0名、1月0名、3月7名 合計 19名参加

総括

確保対策として、院内の説明会と見学会を12回の定期開催と随時応募者の合計49名に実施した。今年度から院内(病棟内)見学を再開し希望部署へ案内することで、病棟の雰囲気や看護職員の様子も知ることができた。また、12月には保護者同伴の病院説明会・見学会を開催し就職先を知る機会となり高評価であった。採用試験は対面の面接が中心であったが遠方で来院が困難な学生に対してはZOOMでの面接とし採用に繋げた。4月入職の新採用者に対して、入職前オリエンテーションを保護者同席として、医療現場の実情を知り就職後の精神的支援が得られるように開催した。病院概要・看護部組織、社会人としての心構え、新人看護師の特徴支援体制、教育体制等について説明した。就職後の不安や心配ごとの解決に結びつく評価となった。インターンシップは午前中のみとして、募集人数は各5名から10名に増やし希望日に参加できるよう配慮し25名の参加があった。その他、看護フォーラム参加の支援、資料配布と確保につながる活動を行った。

定着対策として、入職者へのオリエンテーション、フォローアップラウンド、中途採用者研修の企画運営も行い入職後の悩みや困っていることを把握し、現場で対応できるよう各所属長との連携をもった。

年間の看護師の入職40名、退職者41名で、看護師全体の離職率は15.9%(2023年度20.9%)と昨年度より5%減となった。退職理由は、家庭の事情で転居・結婚、育児との両立困難、身体的に体調不良や体力が持たない、当院にない診療科を学びたい等であった。入職者には生活と精神面を支えるエルダーナース、技術面を支える実地指導者と部署全体で支援態勢を整えて行った。今後も職場の働きやすい環境づくりや人間関係を大切に定着を図っていききたい。

次年度の目標

1. 看護師確保の継続

- 1) 就職説明会・病院見学会への案内と実施
- 2) 保護者同伴の説明会・見学会の開催
- 3) 資料配布
- 4) インターンシップ参加の呼びかけと対応

2. 定着対策

- 1) 入職後にフォローアップラウンドし状況の把握と各部署の師長との連携と情報共有する
- 2) 看護師中途採用者研修、介護福祉士、介護・看護補助者、クラーク研修を企画実施しフォロー態勢を持つ
- 3) 相談窓口を開設し、早期に看護職員の悩みや困っていることを把握し支援していく

看護部 教育担当

文責者名 諸節 香

1.院内研修 キャリアラダー別教育プログラム

	レベル (新人)	レベル (2年目-)	レベル -1	レベル -2	レベル	レベル	その他(管理・補助者)	実践コース
4月	看護部研修 医療安全 救急看護		エルダーナース準備研修	実地指導者準備研修	リーダーシップ研修			がん看護ラダー院内認定研修 クリティカルケア初級
5月	吸引・吸入 抗生剤・輸血・麻薬看護	イキキナース研修	看護倫理 リーダーシップ研修	研究概論		リーダーシップ研修	目標管理検討会 補助者研修 -1 補助者研修 -2	がん看護ラダー達人 がん看護ラダー達人上級
6月	災害看護	救急看護		実地指導者研修 看護倫理	危機管理	危機管理	中途採用者研修	がん看護ラダー中級 退院支援 がん看護ラダー上級 がん看護ラダー中級
7月	3か月研修		エルダーナース研修		危機管理1 看護倫理	危機管理	補助者研修 -1 補助者研修 -2	退院支援 がん看護ラダー初級 がん看護ラダー初級 がん看護ラダー上級
8月							中途採用者研修	クリティカルケア研修中級 クリティカルケア研修初級 退院支援
9月	看護倫理 看護過程			災害看護	リーダーシップ研修	リーダーシップ研修		がん看護ラダー上級
10月	6か月研修 看護過程	イキキナース研修	リーダーシップ研修	実地指導者研修			中途採用者研修 補助者研修 -1 補助者研修 -2 目標管理検討会	がん看護ラダー中級 ストーマケア がん看護ラダー初級
11月					他部署研修		補助者研修 -1 補助者研修 -2	クリティカルケア中級 ストーマケア 認知症ケア事例発表会
12月		他部署研修	エルダーナース研修			リフレクション	中途採用者研修	がん看護ラダー院内認定研修
1月	看護過程	イキキナース研修	リーダーシップ研修		リーダーシップ研修	リーダーシップ研修		
2月	12か月研修					リフレクション	中途採用者研修 目標管理検討会	
3月		エルダーナース準備研修 ケーススタディの進め方		実地指導者研修 実地指導者準備研修			看護部報告会	

2.臨地実習受け入れ 状況

受け入れ機関	時期	受け入れ人数(延べ人数)
県立衛生看護専門学校	通年	1年次:9名 3年次:7名
湘南看護専門学校	通年	1年次:20名 2年次:15名 3年次:53名
湘南平塚看護専門学校	通年	1年次:10名 2年次:8名 3年次:24名
横浜未来看護専門学校	通年	1年次:5名 2年次:25名 3年次:20名
慶応義塾大学	後期	3年次:12名
横浜創英大学	通年	3年次:6名 4年次:3名

3. 出張(外部講師)

主催	出張名	場所	参加人数
湘南看護専門学校	看護管理 講義	湘南看護専門学校	1
	成人看護方法論 講義		1
	成人看護方法論 講義		2
	成人看護方法論 講義		1
	疾病の成り立ちと回復の促進 講義		1
神奈川県西部総合職業技術校	医療的ケアの基礎的理解 講義	神奈川県西部総合職業技術校	1
湘南ナース総合支援センター	湘南ナース養成プログラム 「フィジカルアセスメント 呼吸器・循環器」講義	湘南看護専門学校	1
神奈川県立福祉医療大学	看護実践指導者会講習会(演習)	保健福祉大学実践教育センター	1
横浜国立大学	ELNEC-J コアカリキュラム in KANAGAWA 2024 看護師教育プログラム	オンライン	1
湘南中央病院	看護部教育委員会主催研修会 「救急看護:急変時対応」講義	湘南中央病院	1

4. 院外研修参加状況

主催	研修名	参加人数	主催	研修名	参加人数	
湘南ナース 総合支援センター	湘南ナース養成プログラム「感染看護」	24	神奈川県立保健福祉大学 実践教育センター	令和5年度 看護実習指導者講習会	1	
	湘南ナース養成プログラム「WOC看護 スキンケア」	24	昭和大学保健医療学部	保健師助産師看護師実習指導者講習会	1	
	湘南ナース養成プログラム「フィジカルアセスメント 呼吸・循環」	24	IMSグループ	令和5年度 IMS実習指導者講習会	1	
	湘南ナース養成プログラム「フィジカルアセスメント 消化器・神経」	12	日本消防設備安全センター	自衛消防業務新規講習	1	
	湘南ナース養成プログラム講演会 「私と看護」・「臨地で必要な医療安全」	13	医療安全全国共同行動	医療安全管理者養成研修	1	
	クリニックで働くナースのための研修会 「認知高齢者の看護実践に必要な知識」	1	日本看護協会	医療安全管理者養成	3	
	湘南ナース養成プログラム 「適切な褥瘡のアセスメントに必要な知識」	18	早稲田大学 アカデミックソリューション	医療メディエーター養成講座 導入・基礎編	1	
湘南ナース称号授与式	17	ジェックス	2023年度循環器専門ナース研修夏季コース	1		
昭和大学キャリア 開発・研究センター	2023年度認定看護管理者 教育課程ファーストレベル	1	日本循環器学会	心不全療養指導士	1	
神奈川県看護協会	令和5年度認定看護管理者教育課程ファーストレベル	1	日本糖尿病 療養指導士認定機構	日本糖尿病療養指導士認定試験 第24回受験者用講習	2	
神奈川県立保健福祉大学 実践教育センター	認定看護管理者教育課程ファーストレベル	1	ジョンソン・エンド・ジョンソン 株式会社	Miyazaki Ablation Course (宮崎アブレーション講習会)	1	
神奈川県立保健福祉大学 実践教育センター	感染管理認定看護師教育課程	1	公益社団法人 神奈川県健康財団	令和5年度神奈川県看護職員認知症対応力向上研修	1	
公益社団法人 日本麻酔科学会	術後疼痛管理研修	1	神奈川県ストーム研究会	第38回神奈川県ストームマリハビリテーション講習会	2	
神奈川県看護協会	看護補助者の活用推進のための看護管理者研修	4	神奈川県看護協会	トラブルを防ぐストームケア ～漏れない! 取れない! 困らない!	3	
	看護補助者の活用推進のための看護管理者研修	4		看護の日常から倫理の扉を開く ～対話から始まる看護倫理～	1	
	看護補助者の活用推進のための看護管理者研修	4		感染リスクナースのための感染管理	2	
	フィジカルアセスメントを学ぼう ～明日から実践できる気付き・技術とその根拠～	2		実地指導者研修 ～教育に活かそう! コーチング～	1	
	フィジカルアセスメントを学ぼう ～明日から実践できる気付き・技術とその根拠～	1		「食べる」を支える～接触嚥下障害看護の エキスパートから学ぶ誤嚥性肺炎の予防～	1	
	地域包括ケアにつなげる入退院支援 ～生活者としてその人を見る～	1		笑顔が増えれば職場が変わる! ～相手とわたしのためのアンガーマネジメント～	1	
	主任看護師が取り組む問題解決	2		病院看護管理者が先を読み考える ～診療報酬・介護報酬の同時改訂を控えて～	1	
	事例から学ぼう褥瘡予防とケアの実際	3		地域包括ケアにつなげる入退院支援 ～生活者としてその人を見る～	1	
	実地指導者研修 ～はじめての新人教育～	1		看護師長に求められる看護管理～現場を動かすマネジメント～	1	
	大人の発達障害 ～共に働く私たちにできること～	1		主任看護師に必要なマネジメントの基礎知識	2	
	認知症高齢者の看護に必要な知識	1		令和5年度認定看護管理者教育課程 ファーストレベルフォローアップ研修	1	
	高齢者支援と認知症患者の看護	1		令和5年度認定看護管理者教育課程 セカンドレベルフォローアップ研修	1	
	認知症高齢者の看護実践に必要な知識	2		湘南看護専門学校	豊かな看護教育を作る授業リフレクション ～看護の学びを支えるために～	3
	高齢者支援と認知症患者の看護	1			湘南看護専門学校 卒業講演	1

総括

院内活動では昨年度にキャリアラダーの見直しを行った。それに伴い今年度の院内研修はキャリアラダー対象の研修や中途採用者研修、看護補助者研修の充実を図った。また、がん看護ラダー初級・中級コース、退院支援研修は神奈川県看護協会オープンセミナーに協賛し外部研修生の受け入れを行った。院外研修では診療報酬に関連した研修受講や感染管理認定看護師養成課程をはじめ、心不全指導療法士や糖尿病療養指導士など専門領域に特化した研修に多く参加した。

看護学生の臨地実習では新型コロナウイルス感染症が5類となり、規定時間数での受け入れを行うことができた。そして、基礎教育養成機関3年課程のカリキュラム改訂により、今年度より外来での実習受け入れを開始した。また、神奈川県看護協会主催の1日看護体験の協賛し、延べ40名の高校生が参加した。

次年度の目標

1. 安全で質の高い看護の提供

3 階病棟

文責者名 星野 雅代

病棟紹介

科別:救急科

病床数:30床

看護提供方式:ペア方式継続受け持ち制

入院基本料:急性期一般 7:1

業務統計

	利用率	稼働率	入院数	退院数	在院日数	手術件数	検査件数
2023年度	75.50%	82.90%	798名	543名	10.4日	65件	15件
2022年度	69.70%	77.50%	649名	405名	7.0日	43件	17件

教育、研究

- ・実習指導者養成講習会院外参加者 2名
- ・エルダー研修 1名 2023年12月7日院内発表
- ・実地指導者研修 2名 2024年3月7日院内発表
- ・リーダーシップ研修 1名 2024年1月24日院内発表
- ・院内退院支援看護師 2名
- ・院内がん看護ラダー研修修了 3名

業績

看護研究実施なし

総括

2023年度部署目標評価と課題

1. 看護サービスの向上:今年度の病床稼働率は 82.9%であり、前年度比を上回っている。救急科だけではなく他科の入院を受け入れたことにより稼働率と利用率が上昇した。引き続き、他科の受け入れと DPC 期の最終日を意識した病棟運営をする必要があると考えるため、多職種および後方支援病棟との連携を図り協働する。
2. 安全で質の高い看護の提供:他科を受け入れることにより学習の機会を増やし、安全に業務が行えるよう学習したものが活かせる業務改善を行う必要があると考える。
3. 専門性のある看護が実践できる人材の育成:学習の機会を増やすためには、部署の構造と働き方改革の影響により心身の休息も考慮すると、ハイブリッドでの勉強会の開催も視野に入れた働きかけをする必要があると考える。

次年度の目標

1. 安全で質の高い看護の提供
2. 互いを尊重し、イキイキと働き続けられる環境の構築
3. 退院を見据えた看護の提供

3 階東病棟

文責者名 川島 久江

病棟紹介

地域包括ケア病棟

科別:全診療科

病床数:30床

看護提供方式:固定チーム継続受け持ち制

入院基本料:地域包括ケア病棟入院料 2 及び地域包括ケア入院医療管理料 2

業務統計

	利用率	稼働率	入院数	退院数	転入数	在宅復帰率
2023 年度	74.8%	80.8%	368 名	608 名	276 名	90.0%
2022 年度	56.1%	62.0%	396 名	467 名	222 名	90.2%

教育、研究

- ・認定看護管理者研修ファースト 1 名
- ・実習指導者養成講習会院外参加者 1 名
- ・エルダー研修 2 名 2023 年 12 月 7 日院内発表
- ・リーダーシップ研修 2 名 2024 年 1 月 24 日院内発表
- ・危機管理研修 1 名
- ・院内認知症ケア検討会 1 名 2023 年 11 月 29 日発表
- ・ストーマ研修スタンダード 3 名

業績

看護研究実施なし

総括

2023 年度部署目標評価と課題

1. 看護サービスの向上: COVID-19 感染患者の受け入れや、短期滞在手術患者を積極的に受け入れることにより、短期入院でも「入院して良かった」と思われるように業務改善を行った。来年度は診療報酬の改定があり、今まで通りの運営ができなくなるため、より良いサービスが提供できるようなシステム作りが必要である。
2. 安全で質の高い看護の提供: COVID-19 患者を受け入れる病棟として感染対策に対して力を入れてきた。しかし、感染対策は日々更新されるものであるため今後も知識の更新を行って、安全で安心した看護が提供できるよう、来年度は入職者も含め感染対策について再学習を行い、より良い療養環境が提供できる病棟を目指す。
3. 専門性のある看護が実践できる人材の育成: 人工肛門造設術を受けた患者の受け入れが多くなり、ストーマ研修スタンダードに 3 名参加した。この 3 名が研修終了後にリンクナースとして活動できるよう、活動内容を検討し計画を立案していく必要がある。

次年度の目標

1. 安全で質の高い看護の提供
2. 互いを尊重し、イキイキと働き続けられる環境の構築
3. 退院を見据えた看護の提供

4 階病棟

文責者名 牛丸 純子

病棟紹介

科別:消化器科・循環器科・内分泌代謝科・眼科・形成外科・皮膚科

病床数:60 床

看護提供方式:ペア方式継続受け持ち制

入院基本料:急性期一般 7:1

業務統計

	利用率	稼働率	入院数	退院数	在院日数	内視鏡	手術件数	心カテ数
2023 年度	78.7%	91.9%	2550 名	2437 名	6.2 日	702 件	566 件	347 件
2022 年度	75.9%	88.8%	2626 名	2718 名	5.8 日	831 件	未集計	100 件

教育、研究

- ・医療安全管理研修 1 名
- ・看護補助者活用のための看護管理者研修 2 名
- ・認知症高齢者看護研修 2 名
- ・心不全療養士研修 1 名
- ・循環器専門ナース研修 1 名
- ・糖尿病療養指導士研修 2 名
- ・看護協会研修 9 名
- ・エルダーナース研修 4 名
- ・実地指導者研修 1 名
- ・災害研修 2 名
- ・リーダーシップ研修 2 名
- ・リーダーシップ研修 名
- ・危機管理研修 4 名
- ・リーダーシップ研修 2 名
- ・リフレクション研修 1 名

業績

看護研究実施なし

総括

2023 年度部署目標評価と課題

1. 看護サービスの向上:副師長を中心に看護補助者、クランクへのタスクシフトに取り組みを実施した。定着に向けては次年度に継続して取り組みをしていく
2. 安全で質の高いサービスの向上:インシデントレベル 0~1 報告の増加、是正カンファレンスの実施などで、レベル 以上のインシデント予防に向け取り組みを実施し、病棟内係活動を計画的に実施することができた
3. 専門性のある看護が実践できる人材の育成:今年度心不全療養士・循環器専門ナース研修・糖尿病療養指導士研修を修了し、専門知識を持った看護師を増やすことができた。次年度は実践につなげ、より専門性の高い看護が提供できるよう努めていく
4. 互いを認め尊重し合える人材育成/定着:新入職者に対し定期的にフォローアップ面談を実施することができた。人材定着のためには、継続したフォローアップをしていく必要があるため次年度も継続する。

次年度の目標

1. 安全で質の高い看護の提供
2. 互いを尊重し、イキイキと働き続けられる環境の構築
3. 退院を見据えた看護の提供

5 階病棟

文責者名 白藤 真喜子

病棟紹介

科別: 一般整形外科・スポーツ整形外科
病床数: 60 床
看護提供方式: ペア方式継続受け持ち制
入院基本料: 急性期一般 7:1

業務統計

	利用率	稼働率	入院数	転入数	退院数	手術件数
2023 年度	85.2%	92.1%	1350 名	93 件	1268 名	1307 件
2022 年度	85.2%	91.4%	1207 名	147 件	1181 名	1228 件

教育、研究

- ・エルダー研修 1 名 2023 年 12 月 7 日院内発表
- ・実地指導者研修 2 名 2024 年 3 月 7 日院内発表
- ・リーダーシップ研修 4 名 2024 年 1 月 24 日院内発表
- ・リーダーシップ研修 1 名 2024 年 1 月 24 日院内発表
- ・院外研修参加者 延 21 名
- ・院内研修参加者 延 70 名
- ・部署研修 12 回
- ・倫理カンファレンス開催 6 回

業績

看護研究実施なし

総括

2023 年度部署目標評価と課題

- 看護サービスの向上: 入院患者数・手術件数ともに前年度と比べ増加している。患者から対応について・療養環境・情報伝達の不足についてのご意見があった。事例をもとに部署会議や朝礼時に情報共有し、カンファレンスで検討することができた。次年度も患者・家族の言葉を聞き、丁寧に関わり、情報共有とカンファレンスの場を持ち看護サービス向上に努める。
- 安全で質の高い看護の提供: マニュアル逸脱インシデントは 44.5%ありインシデントごとの振り返りは実施されているが、CLIP を活用したカンファレンスの開催は 50%以下であった。インシデント発生時の記録・報告の在り方についての勉強会を開催した。記録基準を理解し、報告の流れを明らかにしたことで、対応に自信がついたとの意見があった。しかし、経時的に正しい記録ができていくか確認は引き続き行っていく必要がある。次年度はカンファレンスの開催運営方法の周知徹底を行い、心理的安全性が保てるよう環境づくりを実践していく。感染リンクナースを中心に、手指消毒剤使用やポート針穿刺技術の再学習を実施した。手指消毒剤の使用量は増加傾向となったが、微増のスタッフも一定数いるため個別的な関わりが必要である。感染症・感染対策について定期的に各論の学習機会を得ることで、対応策が定着していくことを期待する。
- 専門性のある看護が実践できる人材の育成: 副師長が個人個人へ向け経緯・目的などを丁寧に説明し動画の視聴など学習推進を行った。個々の興味関心・スキルアップの目的の学びだけではなく、病院運営上必須となる学習など動機付ける方法が今後の課題となった。リーダーシップ・メンバーシップの役割を明確にできるよう、係活動を支援してきた。各係で目標立案から評価まで PDCA サイクルを意識し活動に取り組むことができた。

次年度の目標

1. 安全で質の高い看護の提供
2. 互いを尊重し、イキイキと働き続けられる環境の構築
3. 退院を見据えた看護の提供

6 階病棟

文責者名 柏木 清美

病棟紹介

科別:外科 泌尿器科 脳神経外科

病床数:60 床

看護提供方式:ペア方式継続受け持ち制

入院基本料:急性期一般 7:1

業務統計

	利用率	稼働率	入院数	退院数	在院日数	手術件数
2023 年度	83.4%	93.6%	1819 名	1870 名	8.2 日	1294 件
2022 年度	84.7%	93.9%	1939 名	2026 名	7.2 日	1359 件

教育、研究

- ・看護過程 1 名 2024 年 7 月院内発表予定
- ・エルダー研修 3 名 2023 年 12 月 7 日院内発表
- ・実地指導者研修 2 名 2024 年 3 月 7 日院内発表
- ・リーダーシップ研修 2 名 2024 年 1 月 24 日院内発表
- ・リーダーシップ研修 1 名 2024 年 1 月 24 日院内発表
- ・院内退院支援看護師 2 名
- ・院内がん看護ラダー研修修了 10 名
- ・認知症ケア検討会 1 名 2023 年 11 月 29 日院内発表
- ・ストーマケア研修スタンダード 7 名

業績

看護研究実施なし

総括

2023 年度部署目標評価と課題

- 看護サービスの向上: 2023 年度の病床稼働率、入院総数、手術件数は、前年度と大きく変化はなかった。副師長が 1 名から 2 名体制となり、看護の質の強化に向けて取り組みを新たにしており、来年度も継続する。
- 安全で質の高い看護の提供: 周術期看護、ストーマケア、化学療法看護、ターミナルケア、患者・家族へ向けたメンタルケアなど幅広く対応することが求められる中、がん化学療法看護認定看護師やストーマリハビリテーション講習会修了者が、中心となり病棟全体の看護技術や知識の共有することができた。また、科ごとの多職種カンファレンスや看護カンファレンスも定着しており、活発なチーム医療に取り組むことができた。
- 専門性のある看護が実践できる人材の育成: ストーマ外来・入院前の患者を対象にしたストーマ教育外来にも携わるスタッフがいることもあり、ストーマケアに関する学習にも力を入れ、研修参加や部署内での勉強会の開催などを通し、スタッフ間の知識・技術の向上を図るとともに、良好な信頼関係を築くことができた。

次年度の目標

- 安全で質の高い看護の提供
- 互いを尊重し、イキイキと働き続けられる環境の構築
- 退院を見据えた看護の提供

集中治療室

文責者名 平田知子

病棟紹介

科別: 全科(集中治療を必要とする)

病床数: 8 床

看護提供方式: ペア方式継続受け持ち制

入院基本料: 急性期一般 7:1

業務統計

	利用率	稼働率	入院数	転入数	退院数	術後入室	心カテ数
2022 年度	43.7%	41.3%	215 名	320 名	30 名	298 名	29 件
2023 年度	40.4%	41.2%	205 名	299 名	31 名	282 名	40 件

教育、研究

- ・認定看護管理者教育課程ファーストレベル終了 1 名
- ・感染管理認定看護師教育課程修了 1 名
- ・NST 認定療法士 1 名
- ・術後疼痛管理研修終了 1 名
- ・ACLS プロバイダーコース終了 1 名
- ・BLS プロバイダーコース終了 1 名
- ・院外研修参加者 15 名
- ・エルダー研修 2 名 2023 年 12 月 7 日院内発表
- ・リーダーシップ研修 2 名 2024 年 1 月 24 日院内発表
- ・院内認知症ケア研修 1 名 2023 年 11 月 29 日院内発表
- ・院内がんラダー研修中級修了 1 名
- ・ストーマ研修スタンダードコース修了 7 名

業績

看護研究実施なし

総括

1. 看護サービスの向上: 今年度は倫理観の構築や家族ケアにも力を入れ、デスケースカンファレンスや倫理カンファレンスを積極的に実施した。次年度も倫理観を持った看護を提供し、全員で部署の目標達成に取り組み、患者・家族が安全、安心なクリティカルケアが提供できるよう研鑽していく。
2. 安全で質の高い看護の提供: 病床利用率は 2022 年度に比べやや低下したものの、外科患者の入室が約 40%と多く、心臓カテーテル治療の入室が約 38%増加した。また、全体では、予定入室が 46%で緊急入室が 54%の結果であり、緊急手術や院内急変にも即時対応し、受け入れを行うことができています。次年度も集中治療室としての役割が果たせるよう知識や技術を向上させ、より良い看護を提供する。
3. 専門性のある看護が実践できる人材の育成: 積極的に院内外の研修に参加し、日々の看護実践やスタッフ教育、院内チームでの活動に参加するなど学習環境を整えることができた。次年度も、院内外研修の参加や、部署内での共育を行うと共に係活動を活発化し、さらに人材育成に力を注いでいく

次年度の目標

1. 安全で質の高い看護の提供
2. 互いを尊重し、イキイキと働き続けられる環境の構築
3. 退院を見据えた看護の提供

回復期リハビリ病棟

文責者名 鈴木 明子

病棟紹介

科別:リハビリ科

病床数:33床

看護提供方式固定チーム継続受け持ち制

入院基本料:回復期リハビリテーション病棟入院料3

業務統計

	利用率	稼働率	入院数	退院数	改善率	在宅復帰率	重症者割合
2023年度	67.8%	68.9%	132名	133名	37.1%	82.0%	37.1%
2022年度	67.1%	70.0%	132名	162名	43件	78.4%	33.2%

教育、研究

- ・NST研修1名
- ・エルダー研修2名 2023年12月7日院内発表
- ・実地指導者研修1名 2024年3月7日院内発表
- ・リーダーシップ研修 2名 2024年1月24日院内発表
- ・リーダーシップ研修 1名 2024年1月31日院内発表
- ・院内認知症ケア検討会1名 2023年11月29日発表
- ・院内退院支援看護 1名
- ・院内ストーマ研修スタンダード2名

業績

看護研究「回復期リハビリ病棟における日勤帯での転倒転落患者の動向について」実施中

総括

2023年度部署目標評価と課題

- 看護サービスの向上:入院患者の高齢化に伴い認知症や認知機能に障害がある患者が増え、退院後の生活を見据えた看護を提供した。また、稼働率が高い急性期病棟の後方支援病棟として、可及的すみやかに患者の受け入れを行う使命が当部署にはあるため、来年度も積極的に対象患者を受け入れていく
- 安全で質の高い看護の提供:認知症や認知機能に障害がある患者を多く受け入れているため、認知症ケアに対する学習を部署全体で深めてきた。今後はその学習を活かし、患者の回復する過程を支援していくことを多職種と連携し行う。
- 専門性のある看護が実践できる人材の育成:昨年度に続き今年度も新人看護職員の受け入れ、個別性のある回復を支援する看護や、在宅へつなぐ看護、状態悪化に対応できる看護実践能力の育成を病棟全体で行っており、今後も継続して学習を行っていく必要がある。

次年度の目標

- 安全で質の高い看護の提供(認知症の理解・あらゆる症例に対応できる看護実践能力)
- 看看連携(後方支援病棟としての役割の実施)
- 互いを尊重し成長し合える職場環境(時間管理・業務改善)

緩和ケア病棟

文責者名 諸節 香

病棟紹介

科別: 緩和ケア

病床数: 19 床

看護提供方式: 固定チーム継続受け持ち制

入院基本料: 緩和ケア病棟入院料 2

病棟の役割: 現代医学ではがんそのものを治すことがむずかしい状況にある患者さまとご家族の身体的、精神的苦痛の緩和を最優先しており、痛みや苦しみ、悩みをできる限り和らげ、少しでもその人らしい日々を送ることができるよう支援すること

業務統計

	利用率	稼働率	入院数	退院数	在院日数
2023 年度	69.6%	71.9%	95 名	164 名	28.4 日
2022 年度	65.3%	68.3%	99 名	178 名	27.5 日

教育、研究

- ・認知症高齢者看護研修 1 名
- ・ELNEC-J コアカリキュラム看護師教育プログラム 1 名
- ・目標管理研修 3 名
- ・リーダーシップ研修 1 名
- ・リーダーシップ研修 1 名
- ・研究概論 1 名
- ・災害看護 1 名
- ・危機管理 2 名
- ・認知症ケア検討会 1 名
- ・がん看護リーダー達人フォローアップ研修 6 名
- ・がん看護リーダー初級研修 1 名
- ・がん看護リーダー中級研修 1 名
- ・がん看護リーダー上級研修 2 名
- ・がん看護リーダー達人研修 1 名

業績

看護研究実施なし

総括

2023 年度部署目標評価と課題

1. 看護サービスの向上: 入院数・転入数ともに昨年度より上回っているものの、退院数が上回ったことから病床利用率・稼働率ともに低下している。来年度は患者の受け入れ基準の見直しを含め病棟運営が課題であるが、稼働率が上がっても現在と同様に質の高い看護が提供できるよう努めていく。
2. 安全で質の高い看護の提供: 遺族・家族ケア、リンパ浮腫ケア、口腔ケアといった緩和ケアに特化した係活動を行い知識を深めたため、来年度は習得した知識を基に看護技術を磨いていく
3. 専門性のある看護が実践できる人材の育成: 今年度は部署内の学習会に力を入れて実施した。来年度は学習したことが実践に活かせるような活動を行っていく

次年度の目標

1. 安全で質の高い看護の提供
2. 互いを尊重し、イキイキと働き続けられる環境の構築
3. 退院を見据えた看護の提供

手術室

文責者名 久保仁美

部署紹介

手術室数:5 室

局所麻酔用手術室:1 室

手術科:外科、整形外科、泌尿器科、脳外科、眼科、形成外科、皮膚科

業務統計

	外科	整形外科	泌尿器科	眼科	形成外科	皮膚科	脳外科
2023 年度 (4863 件)	1414 件	1384 件	447 件	1439 件	111 件	48 件	20 件
2022 年度 (4929 件)	1354 件	1309 件	419 件	1640 件	100 件	55 件	52 件

	予定手術	緊急手術	全身麻酔	脊椎麻酔	局所麻酔
2023 年度 (4863 件)	4630 件(95.2%)	233 件(4.79%)	2358 件 (48.49%)	766 件(15.75%)	1739 件(35.76%)
2022 年度 (4929 件)	4706 件(95.47%)	223 件(4.52%)	2318 件 (47.03%)	724 件(14.69%)	1887 件(38.28%)

教育、研究

- ・エルダー研修 1 名 2023 年 12 月 7 日院内発表
- ・実地指導者研修 1 名 2024 年 3 月部署内発表
- ・リーダーシップ研修 2 名 2024 年 1 月 24 日院内発表
- ・リーダーシップ研修 1 名 2024 年 1 月 31 日院内発表
- ・エルダー研修 1 名 2023 年 12 月 7 日院内発表

業績

看護研究実施なし

総括

2023 年度部署目標評価と課題

1. 看護サービスの向上: 副師長が 2 名体制となり、安心・安全な手術室看護が提供できるよう、教育・人材育成・人材定着に重点を置き取り組みを行った。来年度はその取り組みの評価を行い、更に安心・安全な手術室看護が行えるよう活動を継続していく
2. 安全で質の高い看護の提供: キャリアラダー別教育プログラムなどに参加し、人材の育成を図った。ラダーレベル 3 名、ラダーレベル 3 名、ラダーレベル 1 名が確定となった。また、リーダー看護師を 1 名育成することができた。
3. 専門性のある看護が実践できる人材の育成: 手術件数は昨年度より 66 件減少した。脳外科医師が 2 名とも交代となったため、手術件数が減少し、開頭手術の習得者を増やすことができなかった。一方、泌尿器科での新たな術式が増え、手術件数の増加がみられた。各科、安全に対応できるよう担当係が中心となり、物品やマニュアルの整備を進めることができた。

次年度の目標

1. 安全で質の高い看護の提供
2. 互いを尊重し、イキイキと働き続けられる環境の構築
3. 退院を見据えた看護の提供

外来

文責者名 吉田 友美

部署紹介

診療科:24科

外来診察ブース:Aブース 救急

:Bブース 整形外科・皮膚科・形成外科

:Cブース 泌尿器科・眼科

:Eブース 中央処置室

:Mブース 化学療法室

:Nブース 内科(消化器・循環器・内分泌・総合診療・神経科)

:Sブース 外科(外科・脳神経外科)

:局所麻酔手術室 眼科・整形外科・皮膚科・形成外科等

業務統計

	患者延人数	救急患者	救急車台数	発熱外来	採血患者数	内視鏡	血管造影
2023年度	125215名	7980名	3800台	1468名	12229名	6299件	384件
2022年度	143857名	7645名	3514台	2769名	29675名	6346件	475件

	外来化学療法	外来手術
2023年度	1458名	917名
2022年度	1347名	1135名

教育、研究

- ・自衛消防業務新規研修 1名
- ・院外認知症ケア研修 1名
- ・リーダーシップ研修 1名
- ・ストーマ研修スタンダード1名
- ・がん看護リーダー研修 3名

業績

看護研究実施なし

総括

2023年度部署目標評価と課題

1. 看護サービスの向上: 受診患者数こそ 2022年度に比して微減であるが、数値には表れない高度化・複雑化した治療が増加している現状がある。そのため、医師・看護師、及び外来に携わるコメディカルの業務量は増加傾向であるため、業務の分散化、いわゆるタスクシフト/シェアを効果的に実施することは看護サービスの向上につながるかと考え、次年度以降に向けた喫緊の課題であると考え
2. 安全で質の高い看護の提供: 次年度以降、救急患者や化学療法患者のみならず脳血管内治療の件数増加や紹介受診重点医療機関として逆紹介の推進など、早期に様々な体制の変化が見込まれるため、適正な業務整理と人員配置・育成の実施が肝要である。

次年度の目標

- 1) 外来看護師の Specialist/Generalist への深化
- 2) 救急医療・IVR・紹介受診重点医療機関としての体制強化

がん看護専門看護師

文責者名 高野純子

・活動内容

がん看護専門看護師 (Certified Nurse Specialist in Cancer Nursing: 以下, CNS) の 6 つの役割 (実践、相談、調整、倫理調整、教育、研究) を遂行

1. 緩和ケア病棟 (Palliative Care Unit: 以下, PCU) での活動

臨床における助言・相談、多職種・他部署との調整、倫理カンファレンス開催支援などを実施した。

学習会は、CNSとして実施しているNEP (Nursing Education Program for Personal Development in PCU) にて、新配属者を対象に、緩和ケア概論を含む「痛みのマネジメントの基本と実践」「せん妄のマネジメント」について個別に実施した。また、全員を対象とした「痛みのマネジメント アドバンス編」「がん看護教育の今」、今年度取り組んでいた PCU におけるボランティア導入を目的に多職種スタッフを対象にした「ボランティアとの協働」についてレクチャーした。

2. 院内における横断活動

1) 相談・コンサルテーション

活動日は月 2 回、がん患者・家族に関する医療者からの相談 (活動日以外の相談にも臨機応変に対応) を受けている。活動日は、PCU での業務の都合で活動日が確保されないことがあるが、2022 年度は 15 回/年だったが、2023 年度は 24 回中 20 回/年を確保できた。

相談件数は前年度 10 件だったが、今年度は 29 件へ増加した (細かなやりとりなどは含めず)。相談者は医師、看護師、MSW などで、電話や対面で行い、その後、患者、家族と直接面談することもある。昨年度、懸案事項として挙げていた PCU 転棟前訪問について、活動日との兼ね合いにはなったが 9 名の転棟前訪問を実施した。この 9 名のうち、7 名については、療養場所の意思決定支援 (患者・家族との面談)、症状マネジメント (痛み・せん妄・呼吸困難)、患者とスタッフとのコミュニケーションへの助言を転入前から行い、支援した。また、今年度はがん治療中の患者を緩和ケア外来へつなぎ、疼痛マネジメントや精神的なフォローアップを行うケースやがん治療中の患者の非常に強い痛みに対応するために、PCU への緊急入院を調整したケース、非がん患者のオピオイド使用法や呼吸困難への対応に関する相談もあった。相談件数の増加とともに、単回の相談でなく、患者や家族との複数回の面談を継続した支援も増加した。

2) 緩和ケアチーム会の運営

開催は月 1 回、多職種 (緩和ケアセンター長、PCU 師長、MSW、OT、栄養士、関連病棟の看護師) で構成され、CNS より 1 ヶ月間の PCU への転入患者のその後の経過を報告し、急性期病棟で関わったがん患者がどのように PCU で症状マネジメントされたかなどの振り返りを実施し、院内の緩和ケア介入が必要なケースについて情報共有した。また、「知見の共有」として、ケースカンファレンスや図書の紹介などで緩和ケアに関する知見を深めることを目的に各回の担当者がファシリテーションしている。

・他病棟経由で PCU へ転棟するケース 2 名~9 名/月

・PCU 退院患者数は増加傾向にあり、2023 年度月平均 15.1 人だったが、最少 9 名/月から最大 19 名/月と開きが大きく、安定しない現状がある。下半期は在患者数が極端に減少していた時期があったが、月 15.8 人と、平均退院者数は増加

教育、研究

1. 院内教育

1) がん看護ラダー研修

初級、中級、上級、達人コースがあり、4年間で課題が認定されると院内認定達人バッジが授与される。院内の化学療法看護認定看護師およびがん看護専門看護師と協働し、講義・グループワークなどを実施して運営した。また、院内認定者には各回の運営支援、研修会内で自己の経験を踏まえたコメントをしてもらい協力を得た。院内認定者の気づきを研修生と共有しお互いの学びを深めた。

- ・2023年度の院内認定者は、準認定者1名を含む2名が新たに認定され、計18名
- ・年間の研修は、認定者のフォローアップ研修を含む全13回
- ・公益社団法人神奈川県看護協会の施設オープンセミナーとして初級、中級を公開し、2名参加

【講師を担ったがん看護ラダー研修一覧】

日程	コース	テーマ	受講
4月19日	達人修了生 フォローアップ	痛みのマネジメント ーヒドロモルフォン・アセトアミノフェン・NSAIDsー	13名
5月10日	達人コース	達人に到達するためのオリエンテーション	3名
5月17日	上級コース	倫理的問題に気づく力やケア実践能力を養おう	11名
6月28日	中級コース	がんに関連する症状とケア	12名
9月20日	上級コース	臨死期のケア	8名

2) 看護部教育プログラムでの講師

- ・看護部教育プログラムの再編に伴い、今年度はすでに倫理における基本的な学習を修了した対象者と臨床でのエキスパートになる対象者を担当し講義・グループワークを実施した。事後課題にも取り組んでもらい、個々にコメントを作成してフィードバックした。

日程	コース	テーマ	受講
7月24日	実践コース レベルⅢ②	看護倫理Ⅲ:倫理観を深めよう ーもやもやする気持ちを発信して行動するー	3名
6月7日	基礎コース レベルⅡ	看護倫理Ⅱ:倫理かな?と思ったら ー何が問題で、何をすべきかを考えるー	10名

3) 院内から地域への緩和ケア教育・啓発

(1) 緩和ケアチーム主催 緩和ケア研修会

7月21日	第1部:がん治療の場の選択 食欲不振時のケア・支援 第2部:療養の場の選択時の意思決定支援	オンライン・ 対面式	地域の医療福祉 従事者54名
-------	--	---------------	-------------------

(2) 緩和ケアチーム主催 市民公開講座

9月30日	人生100年時代への備え~「もしも!」の時の話し合い~	対面式	一般市民、地域の 医療福祉従事者22名
-------	-----------------------------	-----	------------------------

2. 院外教育

研修名	役割	日程	受講
日本ホスピス緩和ケア協会 看護師教育支援部会主催			
専門的緩和ケア看護師教育プログラム (Specialized Palliative Care Education for Nurses: SPACE-N)	企画、運営、 進行役	2023/10/28・29, 11/18,12/17,2024/1/21 各回6時間	42名
SPACE-Nフォローアップ研修	企画、運営、 進行役	2023/9/10	26名
専門的緩和ケアを担う看護師の教育セミナー テーマ『専門的緩和ケアに従事する看護師のクリニカルラダーの活用~SPACE-N 3ステップラダー~』	企画、運営、 講師	2023/8/20	87名
公立大学法人横浜市立大学主催			
ELNEC-Jコアカリキュラム看護師教育プログラム in KANAGAWA 2024	運営、講師	2024 / 2 / 10,11 各回7時間30分	52名

3. 研究

テーマ:『わが国の専門的緩和ケアに従事する看護師のクリニカルラダーの開発』

(代表:京都大学大学院教授 田村恵子、実施責任:高野) 学術団体の HP で公表・セミナーで普及

4. 業績

1) 執筆

- (1) 「緩和ケアの臨床倫理」 8. 転倒しただけで自分でトイレに行きたい - 終末期における転倒の看護と倫理 - . 緩和ケア 33(5), 406-410, 2023
- (2) 医学書院「系統看護学講座 緩和ケア」 第 7 章 臨死期のケア 2023 年 9 月、更新・修正確認
- (3) 「患者さんと家族を支える End of Life ケア」 PART5 End of Life ケアにおける症状とケア. 7. 鎮静. 214-218. 照林社. 2023.

2) 非常勤講師

公益社団法人藤沢市医師会 湘南看護専門学校にて、成人看護方法論 を担当
2023 年 12 月 1 日 ~ 12 月 21 日 (1 回 2 単位 計 4 回) 2 学年 39 名

3) 所属団体・学会

- (1) 日本ホスピス緩和ケア協会
・看護師教育支援部会 部会員および SPACE-N WG メンバー セミナー企画・運営・講師など
・多職種教育支援部会 部会員 専門的緩和ケアの多職種教育プログラム構築
- (2) 日本緩和医療学会 学術集会査読委員会 WG メンバー
- (3) 第 39 回 日本がん看護学会学術集会 (2025 年 2 月札幌開催) 企画委員
- (4) 一般社団法人いいケア研究所 理事

4) 論文

- (1) Eriko Hayashi, Tetsuya Matsuura, Junko Takano, Kaori Morofushi, Kaori Toriizuka, Fumiyasu Fukano, and Hideki Onishi. (2023) Palliative care unit treatment and care for a terminal breast cancer patient with untreated obsessive-compulsive disorder. Palliative & Supportive Care, pp. 1 – 3.

総括

2023 年度は、新入職、他病棟からの異動各 1 名で、CNS として例年実施している NEP (Nursing Education Program for Personal Development in PCU) にて、基本的な緩和ケアに関する学習会を個別に実施した。今年度、PCU では、自律して自分たちのケアの質の向上が図れるよう、ケアレベルの係活動を開始した。がん看護ラダーを通じて、学びの機会を提供しているが、即実践に活用できるアドバンスドな知識の提供を進めていく必要がある。

CNS としての活動日 (月 2 日) も今年度はさらに確保できるようになり、横断的活動として、他科の看護師、医師などからの相談依頼が増加した。これまで課題だった「転棟前訪問」を今年度は実行し、居合わせた家族へのケアや退院支援調整を行うこともあった。また、外来で治療中の患者の疼痛マネジメントに関わったケースや PCU への緊急入院につなげたケースもあった。こうしたケースでは、身体的な変化による日常生活への影響や急激な ADL の変化による不安が強く、面談を重ねて日常生活への助言をしたり、必要な薬剤について医療者へ助言したりすることができた。

緩和ケアチーム会の運営も、メンバーが担当となる「知見の共有」を通して部署を超え多職種で討論できる貴重な場を提供できていると考える。多職種、特にリンクナースを通じて、さらに緩和ケアチームとの橋渡しの機能が充実するよう働き続ける必要がある。

院内の看護教育では、対象となる看護師の看護ラダーレベルに合わせて講義内容を考え、事後課題で個別にコメントすることでフォローした。今年度は ICU にて臨死期のケアについて講義する機会があり、ICU における意思決定支援についても組み込み、倫理的な関わりの重要性について説明した。今後も倫理観の育成に継続的に関わり、患者・家族の意思決定支援やケアの質の向上につながるよう活動していく必要がある。

CNS として、院内外の教育にも研修会の企画や教育プログラムの構築段階から関わって活動している。臨床と並行して研究や論文投稿も継続していく。

次年度の目標

1. PCU 内の教育プログラムによる人材育成:特に緩和ケア分野における中堅看護師の育成
2. 横断的な活動の充実:相談件数の増加、PCU につながる前のがん患者・家族の困りごとに対応
3. 院内外の教育プログラムを充実させるための参画
4. 研究の継続、および研究成果の発信
5. 新しい取り組みとして、学会の企画、シンポジウムのパネリストなど、学術大会を作る側への参画

がん看護専門看護師

文責者名 林 糸り子

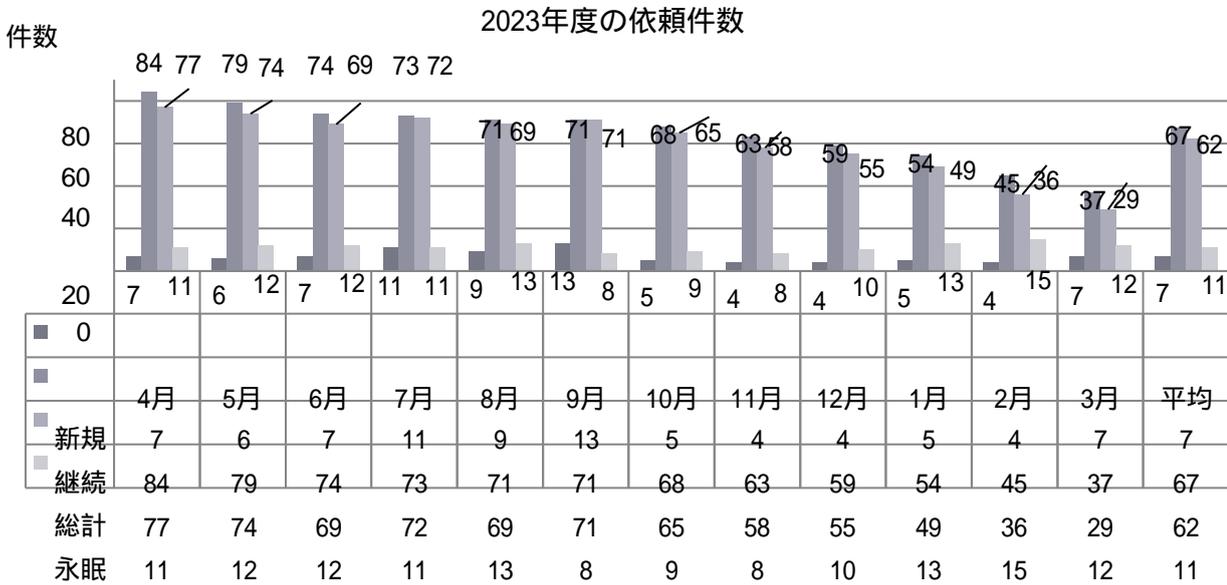
・活動内容

がん看護専門看護師は、一般財団法人同友会の事業所内において、ある特定の専門看護分野において複雑で解決困難な看護問題を持つ個人・家族や集団に対して、水準の高い看護ケアを効率よく提供する。がん・非がんに関わらず、診断、治療、そして終末期という疾病のさまざまな過程において患者やその家族が抱える多くの苦痛や困難に対し、職種に関わらず、がん看護に関する専門的知識と技術を駆使し、医療スタッフとともに問題の解決に当たり、当院におけるがん医療の質の向上に貢献することをその役割とする。

業務統計

1.がん看護専門看護師の活動

1)がん看護専門看護師への依頼件数



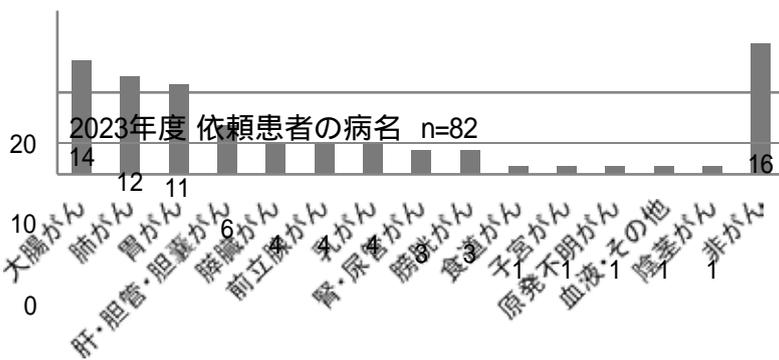
2023年度の依頼患者 総人数・月平均(件)

依頼患者数	新規	継続	総計	永眠
総計	82 (73)			89(71)
月平均	7 (7)	67 (64)	62 (73)	11 (7)

()は昨年のデータを示す

依頼部署(件)

病棟	6(7)
外来	76(66)



2023年度 相談内容件

症状緩和に関すること		
痛みに関すること	123	(111)
痛み以外の症状に関すること	86	(64)
化学療法の副作用に関すること	12	(7)
薬剤の使用方法に関すること	89	(87)
ケア技術に関すること	88	(74)
病気や治療に関すること	18	(17)
日常生活に関すること	38	(43)

退院調整に関すること(在宅調整含む)	12	(16)
メンタルサポート	58	(63)
家族ケア	48	(54)
その他	9	(8)
カンファレンス出席回数		()

2) がん看護専門看護師への依頼件数

新規依頼件数は、82(73)件、新規依頼月平均患者数は、7(7)件であった。月平均の総計患者数は、62(73)件、外来継続看護や在宅療養支援診療所、訪問看護、緩和ケアチームとの連携により、毎月60人以上のがん患者を対象に、緩和ケア病棟に転棟前後、在宅退院、家族支援を強化して療養の場の支援をした。エンドオブライフのがん患者の療養支援の場について、急性期病棟、特に4階病棟(内科・循環器)、3階(救急科、外科)に入院する傾向にあり、症状緩和に関する支援を行った。がん看護専門看護師の初回依頼時は、外来が、6(7)件(7.3%)、入院は、76(66)件(90%)であり、昨年と同様で入院患者での依頼が多い傾向であった。依頼患者の癌腫(主たるがん腫)は、大腸・直腸がんは14(15)件(17%)、肺がんは12(14)件(15%)、胃がんは11(8)件(13%)、膵臓がんは4(7)件(5%)であった。2023年においても、前立腺がんや膀胱がん、腎がん等、泌尿器に関わるがん患者の介入が増加し、11(15)件(13%)で多い状況であった。

3) がん看護専門看護師への依頼状況内容

がん患者のがん疼痛123(111)件、せん妄、呼吸困難86(64)件に関して相談が多い状況であった。エンドオブライフのがん患者の家族等の悲嘆ケア48(54)件や看取りに関する療養の場の相談28(33)件について、医師からの依頼も目立った。ラウンドの際に、看護師からは、がん疼痛、呼吸困難、せん妄など症状緩和が不十分な場合の対応や、終末期の療養の場の選択に関わる依頼が多かった。

教育、研究

論文

- 1)Eriko Hayashi, Tetsuya Matuura, Junko Takano, Kaori Morofushi, Kaori Toriizuka, Hideki Onishi,Thiamine deficiency as a cause of anorexia in terminally ill cancer patients: A case of possible gastrointestinal beriberi ,Palliative and Supportive Care, 2024年3月20日
- 2)Eriko Hayashi, Tetsuya Matsuura, Junko Takano, Kaori Morofushi, Kaori Toriizuka, Fumiyasu Fukano, Hideki Onishi,Palliative care unit treatment and care for a terminal breast cancer patient with untreated obsessive-compulsive disorder,Palliative and Supportive Care 1-3 2023年12月
- 3)林糸り子, 山田藍, 青山真帆, 升川研人, 宮下光令,認知症有病者の遺族および診療やケアに携わる医療者自身が認知症になった場合に希望する死亡場所とその関連要因:インターネット調査,日本看護科学会誌 43 215-224 2023年9月13日
国際学会(筆頭のみ)
- 1)Eriko Hayashi, Maho Aoyama, Fumiyasu Fukano Jyuko, Takano Mitsunori Miyashita,Effects of bathing in a tub on symptoms of e terminal cancer patients in a palliative care unit: An observational study,Sapporo Conference for Palliative and Supportive Care in Cancer, SCPSC Apl,2023
- 2)Eriko Hayashi,Yuki Mitsuhashi,Jyunko Takano,Comparison of knowledges, attitudes and difficulties encountered by nurses taking care of terminally ill cancer patients at the community based general hospital in Japan after clinical cancer nursing training,Sapporo Conference for Palliative and Supportive Care in Cancer, SCPSC,Apl,2023
書籍
- 1)林糸り子(分担執筆). がん疼痛治療薬まるわかり BOOK 第2版. 照林社, 東京, 2023.
- 2)林糸り子(編著者). End of Life ケア: 患者さんと家族を支える. 照林社, 東京, 2023.
- 3)林糸り子(外部評価). 進行性疾患患者の呼吸困難の緩和に関する診療ガイドライン 2023年版:がん患者の呼吸器症状の緩和に関するガイドライン 2016年版:改訂・改題.日本緩和医療学会, 金原出版, 東京, 2023.
- 4)林糸り子(デルファイ委員). がん患者におけるせん妄ガイドライン 2022年版. 日本サイコオンコロジー学会, 日本がんサポーターケア学会, 金原出版, 東京, 2023

総括

2023度も、依頼件数80件以上を維持でき、看護師の困っているケア内容に対応できたと評価している。2024年度もがん看護ラダー研修を通じて、がん看護のケアの質向上や看護実践技術の底上げに参画していきたい。がん看護ラダー研修の達人バッジ者(院内認定)の役割開発は、開発途中であるが、がん患者の対応が多い部署によって、緩和ケアチームの橋渡しや後輩からの相談依頼も増加し、役割を発揮できている。引き続き、達人バッジ者(院内認定)の活躍の場を開発したい。達人バッジの役割として、1)後輩育成(成熟度、スタッフの傾向分析に応じて) 2)がん患者の看護実践経験 3)がん患者の年齢、病状、居住地など背景の理解 4)がん患者の家族ケアなど、がん患者の病態や背景を配慮し、専門性や倫理観を養い、モデルナースとして活躍できるように支援する。

次年度の目標

1. 緩和ケアセンター事業計画に基づいて、専門的緩和ケアを提供できる緩和ケアセンターとしての機能が発揮するよう質向上に向けて活動を行う。
2. 横断活動の機能より OJT で一症例に対して、担当部署と共有しながら看護実践ケアとがん患者のQOLの向上を目標にスタッフと関わる。
3. 教育・研究活動として、引き続き、がん看護の質、がん看護教育の評価、緩和ケアセンターにおけるケアデリバリーシステムの活動・評価、を継続していく。教育やシステム評価は、より客観的データを元に統計学的手法を用いて分析し、根拠を明確にしながら振り返る。一方、臨床現場の複雑な症例は質的分析を続ける。そして、当院や藤沢市のがん医療の質の向上に寄与できるよう臨床研究結果を国内外に発信する。

救急看護認定看護師

文責者名: 吉田 友美

活動内容

院内コンサルト件数: 計 20 件

下表参照

業務統計

事項	状態観察 (指導含む)	ドクターハート 出勤	気道・呼吸管理 (気管切開含む)	循環管理	症例集積 (データ分析)	症例検討
件数	6	3	7	1	2	1

教育、研究

【看護部集合研修】

- ・新採用者研修(救急看護、BLS)、看護補助者研修(BLS)、クリティカルケア研修(初級・中級)
- ・災害看護

【院外講義】

- ・湘南看護専門学校(成人看護方法論)、湘南ナース養成プログラム・フィジカルアセスメント(呼吸器・循環器)
- ・神奈川県西部総合職業技術校(ケアワーカーコース「医療的ケアの基礎的理解」)
- ・湘南中央病院看護部研修(「救急看護・急変時対応」)

【学会参加】

- ・第 26 回日本臨床救急医学会、第 25 回日本救急看護学会、第 21 回日本臨床医学リスクマネジメント学会

総括

院内外での主たる活動が、研修講義であった。分野の特性上、急性期を中心とした各病棟に入院中の患者ケア、救急を含む外来受診患者への三側面へのケアの向上を第一に考えた活動を継続して行うことが重要である。看護師長役割と並行し、臨床の現場に立ち救急看護ケアを実践しスタッフへ享受できるように次年度以降も取り組む所存である。病院の基本方針である「24 時間断らない救急医療」や、病院長の掲げる「災害に強い病院」とは、再度基本に立ち返り、次年度の活動への布石としたい。

次年度の目標

1. 急変予兆の早期発見・予防、重症化回避のための研修や院内ラウンド、システムの改善・強化
2. 救急外来・集中治療室のケア向上に向けた取り組み

がん化学療法看護認定看護師

文責者名 三橋 由貴

活動内容

1. 認定活動日

- ・2023年4月～11月:毎週木曜日
- ・2023年12月～3月:第1,第3木曜日

2. 活動内容

- ・がん化学療法に関わる相談や指導・支援
- ・院内研修の企画・運営
- ・がん化学療法検討チームへの参加
- ・マニュアルの改訂

業務統計

1. がん化学療法実施数(入院)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
外科	1	1	3	1	0	0	1	0	2	2	1	0	12件
泌尿器	3	2	12	8	8	5	8	1	0	2	3	4	56件
消化器	1	2	3	2	1	0	0	1	2	0	0	0	12件

「静脈内投与のみ(腔内注入などは含めない)」

2. 実践活動

1) 活動実績 (2023年12月より病棟への異動となったため、外来化学療法室での実績は終了)

	外来化学療法			入院患者			がん患者 指導管理	合計
	化学療法	患者相談	相談外来	支援	相談	指導		
4月	1			0	4	1	1	7
5月	2			1	4	2	0	10
6月	2			1	7	3	2	15
7月	5			0	4	4	0	13
8月	3			2	7	0	2	14
9月	2			2	6	1	1	13
10月	3			2	7	1	2	15
11月	2			2	4	2	2	12
12月				3	7	4		14
1月				2	6	3		11
2月				3	7	2		12
3月				3	5	2		10
合計	20	1	1	21	68	25		146

2) 主な活動内容

- (1) 「抗がん剤血管外漏出時の対応マニュアル」の改訂
- (2) アンスラサイクリン系抗がん剤漏出時に使用する「サビーン®」運用マニュアルの新規作成 8月より運用開始
- (3) 院内の CV ポート感染の発生率上昇により、CV ポートの穿刺手技や教育についての相談、協働
- (4) がん看護リーダー研修達人バッジ取得者による部署内活動への支援
- (5) 遠方から緊急入院となった患者の治療方針の確認や治療の場に関する相談、退院支援看護師との調整

2. 相談

内容	件数
化学療法を受ける患者や家族の看護に関すること	23件
血管外漏出に関すること	7件
薬剤の取り扱い・曝露に関すること	10件
CVポートに関すること	10件
研修会・学習会の依頼相談	10件
その他	8件
合計	68件

教育、研究

1. 院内

1) がん看護ラダー研修の企画・運営

内容	開催日	参加人数	
初級編	「がんの病態生理・総論」	7月6日	10名
	「がん患者の苦痛緩和の基礎」	7月20日	9名
	「がん化学療法の基礎」	10月26日	10名
中級編	「がん化学療法の有害事象と看護」	6月8日	14名(1名院外)
	「がんに関連する症状とケア、リソースの連携について」	6月28日	12名(1名院外)
	「抗がん剤の安全な投与と皮下埋め込み型ポートの管理について」	10月12日	12名(1名院外)
上級編	「倫理問題 / 在宅IVHの退院調整の流れ」	5月17日	11名
	「ロールプレイでコミュニケーションを見直そう」	6月21日	9名
	「がん化学療法とセルフケア支援について」	7月28日	12名
	「喪失・悲嘆・死別ケアについて」	9月20日	10名
達人編	達人課題の進め方	5月10日	3名

2) がん看護ラダー研修院内認定者対象研修

内容	開催日	参加数
フォローアップ研修	4月19日	15名
フォローアップ研修	12月13日	11名

2. 院外

1. 湘南看護専門学校		
講義科目(時間)	日時	対象
疾病の成り立ちと回復の促進 (計4時間)	10月6日・13日	第1学年

2. 湘南平塚看護専門学校		
臨地実習	日時	対象
1) 外来化学療法室見学実習	11月30日	第3学年
2) 講義「がん化学療法看護認定看護師の役割と活動」		

総括

- 2023年に「がん薬物療法に伴う血管外漏出に関する合同ガイドライン」(金原出版)が改訂となったため、合わせて院内のマニュアルを改訂し運用を開始した。今回ガイドラインでは、漏出時のステロイド皮下注射を推奨しないと記載されるなど、対処方法に大きな変更がかかっていたため、今回タイムリーに改訂ができたことは評価できる。
- がん看護ラダー研修達人バッジ取得者の部署内活動の支援では、発生した症例や部署内の学習ニーズなどに応じたテーマの抽出や内容に関する相談、支援を実施した。入院抗がん剤治療の件数は少ないため、スタッフが経験を積む機会が少なく、実施するその都度学習を重ねる必要があると考える。
- 今年度途中で、6階病棟への部署異動となったため、今後活動の場は病棟が中心となる。病棟におけるがん化学療法看護の推進に注力していく。

次年度の目標

1. 病棟スタッフの CV ポート管理に関する質の向上。また、自己抜針指導の実施に向けた取り組み。
2. がん看護リーダー研修、達人コース受講生の課題達成に対する支援
3. がん看護リーダー研修生を対象としたがん性疼痛への看護実践に関する看護研究の実施

臨床研修医

文責者名 深野 史靖

活動内容

1. 臨床研修委員会

毎月開催され12回の定例会を行い、年に2回関連施設の先生を交えて行った。

令和5年度研修医

当院採用1年時6名と、横浜市立大学附属病院・横浜市立大学市民総合医療センター病院からのたすきがけ各1名、計8名となった。

2年時は、当院6名とたすきがけ2名の計8名となった。

横浜市立大学附属病院から救急研修医が、12週間救急研修を行った。

令和6年度採用研修医採用試験・マッチング

今年度から当院採用枠が7名となり、フルマッチだった。国家試験も全員合格だった。台湾の医学部卒業し、日本の国家試験に合格した1名も、別枠で当院で研修を行う。

後期研修医

今年度はいなかった。

研修医の動向

出身大学

東京医科歯科大学

産業医科大学

東邦大学

福島県立医科大学

信州大学

群馬大学

新潟大学

琉球大学

日本医科大学

東海大学

聖マリアンナ医科大学

山形大学

浜松医科大学

久留米大学

研修終了後の進路

北里大学

産業医科大学

横浜市立大学

横浜市立大学

横浜市立大学

横浜市立大学

整形外科2名

外科

泌尿器科

麻酔科

小児科

消化器内科

2. カンファレンス

救急カンファレンス 2回/週

研修医勉強会 1回/週

病理カンファレンス 隔週1回

総括

コロナも5類となり地域医療研修も一部行えた。

精神科の研修施設が変更になった。

5月に産業医が個別面談し、健康状態を把握した。

学生見学者が138名と過去最高だった。研修医試験受験者も41名と過去最高だった。

次年度の目標

研修効果が上がるように、プログラム・環境を整えていく。

研修医の要望も多岐になり、大学病院・藤沢市民病院・横浜医療センターなどと、さらに連携を深めたい。

1年時に選択科目を研修できるので、活用していく。